

合ヲ以テ約權セシメ外ナケレハナリ
 尙ホ一層困難ヲ生スヘキコ似タル場合ハ賦金千圓ノ年金權ノ場
 合ニ於テ賦金ニ應スレハ頗フル寡額ナル元本例ヘハ五千圓又ハ
 六千圓ニテ償還ヲ爲スヘキ場合是レナリ此際ニ於テハ買主未確
 定ニシテ且ツ隨意ノ期限ニ此金額ヲ約シタリト謂フコト得ス何
 シトナレハ是レ第一ノ場合ニ於テハ百圓ニ付キ二十圓第二ノ場
 合ニ於テハ百圓ニ付キ十六圓六十六錢ノ利息ヲ約シタリト云フ
 ニ外ナラス而ノ合意上ノ利息制限法ノ禁スル所ナレハナリ
 然レハ此際ニ於テハ賦額ノ高ヲ辨明スルコ足ル可キ多額ヲ以テ
 元本高ト定メタルモ償還ノ際ニ至リ義務者釋放ヲ得此元本ヲ定
 數ニ減スヘキコト約シタリト假定スヘキナリ
 贈與又ハ遺囑ニ因リ無償名義ニテ設定セタル永久年金モ償還ノ

事ニ付キ同一ノ規則ニ依循スルモノナリ○蓋シ贈與者又ハ遺囑
 者モ買戻ノ條件ヲ約束スルコト得例ヘハ賦額千圓ヲ與ヘシキ自
 己又ハ其相續人償還ヲ爲サント欲セハ一萬二萬乃至三萬圓ヲ拂
 フヘシト官フヲ得ヘキナリ是レ恰モ隨意ニ返還スルヲ得ヘキ此
 金額ヲ無償ニテ附與スヘキコト約シ其償還ニ至ルマテハ第一ノ
 場合ニテハ百圓ニ付十圓第二ノ場合ニテハ五圓第三ノ場合ニテ
 ハ三圓三十三錢ノ利息ヲ拂フヘキ旨ヲ約シタルカ如シ
 之ニ反シ五千又ハ六千圓ヲ以テ償還ヲ爲スヘキハ賦額千圓ト
 スレハ百圓ニ付利息二十圓又ハ十六圓六十六錢タルヘキカ故ニ
 前段ニ述ヘタルカ如ク贈與又ハ遺囑ノ元本一層巨額ニシテ唯タ
 償還ヲ勸勵セシカ爲メ一部ノ釋放ヲ爲シタルモノト假定スヘシ
 又賣主若クハ贈與者自カラ償還ノ方法並ニ金高ヲ定メサル場合

定期定スルヲ要シタリ。○此際ニ於テハ本法頗ル簡易ニシテ且ツ
 條理ニ適スル方法ヲ取用セリ即チ不動産ノ價額又ハ贈與ノ目的
 ナル賦額ヲ元本ノ法律上ノ利息ト看做シタリ故ニ此利息ヲ以テ
 元本ヲ知ルノ方法トス若シ法律上ノ利息百圓ニ付キ五圓即チ二
 十圓ニ付キ一圓タラハ賦額ニ乘スルニ二十ヲ以テス可シ然ルレ
 ハ賦額五百圓ナレハ元本一萬圓タルヘク賦額六百圓ナレハ元本
 一萬二千圓タル可シ。○是レ佛蘭西ニ於テ行フ所ノ方法ナリ。
 日本ニ於テハ法律上ノ利息百圓ニ付キ六圓即チ十六圓六十六錢
 ニ付キ一圓ナルカ故ニ賦額ニ乘スルニ十六六六ヲ以テス可シ之
 ヲ以テ賦額五百圓ナレハ元本八千三百三十圓ヲ以テシ六百圓ナ
 レハ九千九百九十六圓ヲ以テシ七百圓ナレハ一萬千六百六十二
 圓ヲ以テ買戻ス可キナリ。

詞ヲ變ヘテ之レヲ言ヘハ此賦額ノ乘法ニ依リ年金ノ法律上ノ元
 本ヲ得ト謂フ可キナリ。或ハ年金ノ元本償還ノ事ニ付キ義務者裁判所ニ請フテ該償還ヲ
 多少ノ時間ヲ隔テ數度ニ爲ストナ得可キヤ否ヤヲ問フ者アラン
 ○而シテ裁判所ハ通常ノ辨濟ニ付キ猶豫期限ヲ與ヘ又部分辨濟
 ナ爲サシムルヲ得ルカ故ニ(第四百二十六條)此特殊ノ事項ニモ
 此法則ノ適用ヲ及ホス可シト信スル者アラン然レモ此點ニ付テ
 ハ其適用ヲ及ホスト能ハサルモノナリ蓋シ第四百二十六條ノ法
 則ハ權利者嚴ニ其權ヲ行ヒ以テ即時ノ辨濟ヲ爲サシメント欲ス
 ル不幸ナル義務者ニ加ヘタル保護ナリ然ルニ年金償還ノ場合ニ
 於テハ隨意義務ニ係ルヲ以テ義務者強テ辨濟ヲ爲スヘキヲ命
 セラル、モノニアラス其之レヲ爲スハ其欲スル所ニシテ且ツ爲

スコチ得ルカ故ナリ左レハ元本ヲ貯蓄シ一時コ之レヲ拂ハサル
可ラス之レカ爲メコハ充分時間ヲ有スルモノナリ
然レモ裁判所ハ賦金辨濟ノ爲メ義務者コ猶豫ヲ與ヘ其部分辨濟
ヲ許スコチ得可シ是レ權利者賦金ノ辨濟ヲ要求スルコチ得ル場
合ニ係ルカ故ナリ○又次條ノ場合ニ於テハ元本ノ償還ヲ請求ス
ルコチ得ル例外ノ場合ニ至リタルキハ部分償還ヲ許可スルコチ
得可シ

然レモ辨濟ノ分離ヲ證書中ニ約シタルキハ部分辨濟ヲ爲スコチ
得
又義務者數人ノ相續人ヲ遺シ死去シタルキモ同様ナリ此場合ニ
於テハ各相續人其相續部分ニ應シ賦金ヲ拂フノ義務アルノミナ
レハ此賦金ニ應スル元本ヲ償還スルノミニテ義務ヲ免ガル可シ

蓋シ年金ハ不可分ノモノニアラサルナリ

第十八章 使用貸借

第一款 使用貸借ノ性質

第八百九十條 使用貸借即チ辨用^{コンモダ}ハ契約者ノ一方カ他ノ一方ヲシ
テ一箇ノ動産又ハ不動産ヲ使用セシムル爲メ之ニ其物ヲ渡シ又
其借主ニハ明瞭又ハ暗黙ノ期限後其借受タル原物ヲ其儘返還ス
ルノ義務アル契約ナリトス

此貸借契約ハ性質上無償ノモノトス

第八百九十一條 借主ハ其借用物上ニ物權ヲ獲得スルコチナク只貸
主及ヒ其相續人ニ對シテ人權ヲ獲得スルニ過キス
借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セス但シ契約者双方ニ之ニ反對ノ
意思アリタルコト明確ナルキ及ヒ借主ノ相續人他ニテ同一ノ物品

ヲ求ムル爲メ若干ノ猶豫期限ヲ請フテ之ヲ許ス可キハ格別ナ
リトス

註解

第八百九十條第八百九十一條 本案ニ於テ佛法典ニ設定シタル貸
借契約ノ順序ヲ轉倒セシハ決シテ理ナキノコトアラサルナリ○
即チ本案ニテハ消費貸借ヲ第一位(前章)ニ排置セリ是レ他ナシ次
條ニ説クカ如ク彼消費貸借ハ借主ニ貸借物品ノ所有權ヲ附與
スト雖モ使用貸借ニ至リテハ只借主ニ人權ヲ附與スルニ止マリ
絶テ使用ノ物權ヲモ附與スルコトナキヲ以テナリ○本章已下本
編ノ終リニ至ル迄ニ列記シタル所ノ諸契約ハ悉ク同一ノ性質ヲ
有スルモノトス

蓋シ使用貸借ノ別稱(辨用)ナル名ハ羅馬ニテ使用貸借契約ノ單一

ナル名稱タリシ所ノ(commandatum)ナル羅句語ノ翻譯ニシテ此語タ
ル(commodum)供給セラレタル利益)ナル語辭ヨリ來リタルモノナリ
〔使用貸借ノ性質〕ノ爲メ設ケタル此第一款ニ於テハ左ノ諸件ヲ説
明ス可シ

- 第一 使用貸借契約ハ單一ナル承諾ノミヲ以テ組成セラル、モ
ノニアラス即チ此貸借契約タルヤ實行契約タル消費貸借契約ト
等シク(レ)物自ラ)ニ依リ即チ其物ノ交付若クハ引渡ニ依リテ組成
セラル、モノナリトノコト(第三百二十條參觀)
- 第二 此契約ハ目的物トシテ不動産動産ヲ有シ得可キモノニシ
テ是レ消費貸借ノ場合ニ在ラサルモノナリトノコト
- 第三 其借用物ノ返還ハ原物ニテ其借り受ケタル物ヲ以テ爲ス
可ク其相當物ヲ交付ス可カラストノコト

第四 借主借用物ヲ保存シ得ルノ期限ハ暗黙ニ定メラル、ヲ得可シトノコト

第五 使用貸借ハ利付ナルモ有償契約ト爲ル所ノ消費貸借ト異ナリ本質上無償ノモノナリトノコト

第六 使用貸借ニ於テハ借主使用ノ物權ヲ獲得スルコトナク只貸主ニ對シテ債主權即チ人權ヲ獲得スルニ過キストノコト

第七 此契約ハ貸主ノ死去ニ依リテ終了スルモノニアラスシテ其相續人期限ノ滿ツル迄此契約ヲ守ラサル可ラストノコト

第八 前ニ反シテ原則上此契約ハ借主ノ死去ニ依リテ終了シ其相續人ハ貸主己レニ未定ノ利益ヲ與フルノ意思アリシコトヲ証スルノ場合ヲ除キテ期限前ト雖モ借用物ヲ返付セサル可ラストノコト

第九 借主死去スルニ因リ契約消滅スルモ借主ノ相續人

ハ貸借物ト同様ノ物件ノ使用權ヲ得ンカ爲メニ猶豫期限ヲ求ムルコトヲ得可シ但シ之レカ爲メニハ物件ノ使用權ヲ直チニ剝奪セラル、ニ付キ重大ナル損害ヲ蒙ムルヘキ旨ヲ辨明セズンハアルヘカラス

以上述ヘタル數多ノ性質ノ各自ハ簡單ナル説明及ヒ辨明ヲ要スルニ過キス

吾人ハ前述ノ順序ト同一ノ順序ニ倣フテ速カニ此等ノ性質ヲ説述セシム

第一 使用ノ爲メノ貸借契約ハ實行ノモノニシテ純然タル承諾上ノモノニ非ス實ニ該契約ノ主タル目的ハ使用ヲ許スニ在リ然ルニ何人ト雖モ未タ物件ヲ領受セサル前ニ之レヲ使用スルコトヲ得ス且殊更該契約ハ借主ヲシテ其貸借物ニ注意ヲ加ヘテ保存シ

約束ノ時期ニ至リテ之レヲ返還スルノ義務ヲ負ハシメタリ然ラ
ハ則チ何人ト雖モ其領收セシ物ニアラサレハ之レヲ保存シ且返
還スルコトヲ得ス

夫レ使用貸借ノ純然タル承諾上ノ約束ニハ効力ナカルヘシト云
フニ非スト雖モ是レ無名ノ契約ナル可ク且是レ使用貸借トハ順
序ノ顛倒アル程ノ差異アリ即チ貸主未來ノコ於テ物件ヲ保存ス
可ク(例ヘハ他人ニハ該物件ヲ移轉シ又ハ貸與セサルコト)且其後ニ
之レヲ引渡スヘキモノナリ而シテ此貸借ハ第一ノ契約即チ貸與
ノ約束ノ成就スヘキコトアラサレハ開始セサルモノトス

第二ノ不動産ハ之レヲ毀壞セストモ使用シ得ルモノナレハ之レ
ヲ貸與スルヲ得ルカ如クニ亦之レヲ使用ノ爲メニ貸與シ得ルコ
ト勿論ナリ之ニ反シテ不動産ハ消費ノ爲メニスル貸借ノ目的タル

ヲ得ス
又不動産ニ關シテ論ゼンコト佛法典(第千八百七十八條)ニハ物件カ使
用ニ依テ消費セサルモノタルヲ要スト雖モ本法ニ於テハ之レヲ
要セサルコトヲ注視ス可シ尤モ消費セシテハ使用ヲ爲スコトヲ得
サル物件、米、薪、炭ノ如キハ之レヲ使用ノ爲メニ貸與セサルコト明カ
ナリ蓋シ若シ之レヲ貸與セハ最早其使用ハ唯之レヲ握有シ且之
レヲ指示スルニ過キス然レトモ時トシテハ借主ニ於テハ尙ホ此
方法ヲ以テ足レリトスルコトアリ即チ商人商業ヲ開始スルニ際シ
未タ其商店ニ賣品ヲ聚集スルノ進ナキコトアリ此際唯其賣店ヲ粧
飾スルカ爲メノ目的ヲ以テ商品、需用品ヲ借受クルノ場合はレナ
リ此ノ如キ場合ニ於テハ締約者双方間ニ於テ借主其借受ケタル
物件ヲ賣却セサルヘキノ約束ヲ爲スヘキモノトス而シテ羅馬人

及ヒ其說ヲ採用スル者ノ曰ク斯ル貸借ハ^{ad panpands ostentatinem}即チ奢侈虚飾ノ貸借ナリト○兩替商ニ於テモ亦此ノ如ク其店チ粧飾スル爲メニ外國ノ金銀貨ヲ借用スルコトアリ(此手段ハ日本ノ慣習ニ出ルモノト云ハシヨリ寧ロ歐洲ノ慣習ニ出ルモノト云フ可シ)然ルニ金銀貨ハ使用ニ因テ消費スルモノナリ以上掲ケタル所ハ消費貸借ニ付テ吾人カ論述セシ所ト相反スルモノトス即チ消費貸借ノ場合ニ於テハ性質上代用スヘカラサル物又ハ最初ノ使用ニ因テ消費セサル物例ヘハ家具、手工具、馬ノ如キヲ貸與シテ借主之レチ消費シ又ハ移轉スルコトチ得可シ而シテ借主ハ其貸借物ヲ賣却セシ後ニ其物ニ成ルヘク類似シタル物ヲ返還ス可シ

總テ此事項ニ於テハ結約者双方ニテ借主チシテ貸與物チ使用セ

シムヘキノ意思チ有スルト否トニ關スルモノトス然レモ物件ノ性質ハ常ニ貸借契約ノ性質ニ眞實ノ影響チ及ホスモノナリ即チ其性質ハ貸借物カ最初ノ使用ニ因テ消費セサルモノナルキハ其貸借契約チシテ使用ノ爲ニスルモノタルチ推測セシメ之レニ反シテ若シ其物件カ最初ノ使用ニ因テ消費スルモノタルキハ其貸借契約カ消費ノモノタルチ推測セシム可シ

第三 貸借物チ其儘返還スルノ義務ハ使用貸借ニ於ケル借主ハ貸借物チ消費スル權利チ有セサルコトノ結果ナリ

第四 借主其貸借物チ貯有シ得可キ期限チ必ス明示スルニ及ハスノ借主貸主ニ對シテ其物件上ニ有ス可キ需要ノ大少ト性質トチ知ラシメタルキハ其期限ハ暗黙ニ定メタルモノトシテ看做サル、コト當然ナリ○故ニ家屋修復ノ爲メニ支持柱チ貸與スルキハ

其修復ニ要ス可キ未定ノ期限間之ヲ貸與シタルヲ明カナリ
 第五 使用貸借ノ最モ著明ナル性質中ノ一ハ其基本^〇上無償^〇ナル
 一是レナリ詳言スレハ若シ借主ニ於テ其貸借物ニ多少相當スル
 利益ヲ供給セシキハ其契約ハ有償契約トナル可ク其對價物トシ
 テ金錢ヲ供セシキハ則チ賃借契約トナル可ク若シ又其他ノ物ヲ
 對價物トシテ供給セハ是レ無名契約トナル可シ
 蓋シ使用貸借ノ無償ナルカ故ニ之レヲ以テ贈與ノ爲メ設ケタル
 多少制限セシ例外規則ニ從フモノト決ス可ラス〇即チ第一ニ使
 用貸借ハ概マ外國法ニ要スル所ニシテ日本ニ於テモ其幾分ヲ採
 用スルニ疑ナキ所ノ公式ニ從フヲナシ是レ蓋シ貸主ノ供給スル
 利益ハ其不利トナルヲ僅少ナルハ勿論又常ニ限定シタル時間内
 此不利ヲ受クルニ過キサル可ク而シテ之レヲ以テ時間ヲ費シ且

ツ多少ノ費用ヲ要スル法式ニ從ハシムルハ全ク貸借過半ノ成立
 チ防礙スルモノナレハナリ
 又使用貸借ニテハ贈與者ニ要メタル多少例外ニ屬スル能力ヲ貸
 主ニ要ム可ラス是レ即チ常ニ貸主ノ不利微少ナリト前同一ノ原
 由ニ基キ且ツ法律上右ニ關スル嚴則チ設定スルキハ無能力者其
 需用アルニ際シ使用ノ爲メ需用物ヲ借受スルヲ得ス實ニ之レカ
 不便ナル可シトノ旨趣ニ基キテ若カセシナリ
 佛國ニ於テハ一般ニ既脱後見ノ未丁年者及ヒ自己ノ財産ノ管理
 權ヲ有スル結婚シタル婦女ハ有効ニ使用ノ爲メ需用物ヲ貸與シ
 又之レヲ借受シ得ヘキヲ認許シタリ
 然レモ未脱後見ノ未丁年者及ヒ被禁治產者ハ使用ノ爲メ其需用
 物ヲ貸與シ又之レヲ借受スルヲ得ストセリ是レ他ナシ貸與シテ

ハ其己レニ必要ナル可キ使用ヲ放棄シテ自ラ不利ヲ招ク可ク又借受シテハ其借用物ノ保存ニ關シテ或ル責任ヲ負ハサル可ラサルヲ以テナリ

第六 使用契約ノ「使用」タル名稱アルニ因リ借主ハ使用權(又ハ家屋ニ關スルキハ住居權)及ヒ第百十六條乃至第百二十條ニ掲ケタル物上權ヲ獲得ス可シト信スル者アル可シト雖モ決シテ然ラズ蓋シ借主ハ貸主ニ對スル債主權即チ對人權ヲ獲得スルニ過キサレハナリ

第七及ヒ第八 自カラ義務ヲ負フ者ハ其相續人ニモ義務ヲ負ハシムヘシトノ原則ハ(第三百五十八條)茲ニ其尋常ノ適用ヲ爲スモノナリ○而シテ法律上此旨ヲ説述スルハ是レ借主ノ相續人ニ關シテハ相異ナルヲ指示センカ爲メナリ

佛蘭西法典(第千八百七十九條)ハ借主ノ死去ト貸主ノ死去トノ間ニ差異ヲ設ケス即チ何レノ場合ニ於テモ管テ設定セシ時期ノ經過スルマテハ一切ノ相續人ノ利害ニ於テ合意ノ効力ヲ維持セリ○然ルニ茲ニ吾人ハ借主ノ死去ハ其權利ニ了終チ附シテ該權利ハ借主ノ相續人ニ移轉セサルヲ以テ規則ト定メタリ何トナレハ其契約ニ無償ノ性質アルヲ其基本上有期ノ性質アルヲ及ヒ貸主ニ於テ信用ヲ必要トスルヲハ貸主ノ方ニハ借主ノ一身ヲ主トシテ該契約ヲ承諾セシモノト看做スニ至ルヘケレハナリ然レトモ之ニ反スル場合ノ生スルヲアルヘキカ故ニ法律ハ貸主カ借主ノ家族ニモ辨益ヲ與フルノ意思アリシ旨ヲ借主ノ相續人ヨリ証明スルヲ許セリ例ヘハ甲者其家屋ノ火災ニ罹リタルニ因リ更ラニ之レヲ建築スル間自己及ヒ其家族ノ住居スルカ爲メ乙者ヨ

リ或ル家屋ヲ借受ケタル場合ノ如シ○然レトモ佛蘭西法典ニ於テ規則トシテ定メタルモノハ我草案ニハ例外ニ過キヌ又該法典ニ豫定シタル例外ハ草案ニハ規則トナルモノトス

第九 借主ノ相續人貸借物ノ使用ヲ充分ニ爲サザル前ニ之レヲ返還スルノ義務ハ或ル場合ニ於テ右ノ相續人ニ甚ク困難ナルヲアリ此場合ニ於テハ法律ハ右ノ相續人ヲシテ其貸借物ヲ返還スル前ニ之レニ類スル物件又ハ類似セストモ其用ヲ爲スヘキ物件ヲ獲得シ得ヘキ程ノ猶豫期限ヲ裁判所ニ請求シテ之レカ許シテケ受シムルヲ許容セリ

第二款 貸借ヨリ生シ又ハ貸借ニ附テ生スル義務

緒論

佛法典ニ於テハ貸借義務ノ爲メ二個ノ款ヲ設ケタリト雖モ本案

ニ於テハ右ニ關シテ只一款ヲ設ケタリ何トナレハ佛法典ニハ借主ノ義務ト貸主ノ義務ヲ別々ニ論シタルニ依リ貸借契約ヲ以テ双務契約ト思惟セシムルヲアル可シト雖モ是レ決シテ双務ノモノニアラサレハナリ即チ後日佛法典ニテ貸主ニ歸シタルモノニシテ一個ハ所謂眞ノ義務ト云ハンヨリハ寧ロ權利ノ放棄ト稱ス可キモノ又他ノ二個ハ或ハ不當ノ利得或ハ不正ニ釀シタル損害ヨリ生スル三個ノ義務ヲ説明ス可シ是等ノ義務タル全ク意外ニ出ツルモノニシテ貸借ハ其原由ニアラス只之レヲ生スルノ機會タルニ過キヌ是レ本案ニ於テハ借主ノ負擔ニ歸ス可キ義務ヲ以テ貸借ヨリ生スル義務トシ貸主ノ負擔ニ歸ス可キ義務ヲ以テ貸借ニ附テ生スル義務トシ是等ノ義務ヲ以テ一款中ニ並ヒ論シタル所以ナリ

蓋シ消費貸借事項ノ第八百七十七條ニ於テ右ニ類似ノ注意ヲ爲シタリシカ只其本條ノ注意ト相異ナル所ハ消費貸借ニテハ借主直チニ其借受物ノ所有者ト爲ルヲ以テ借受物ヨリ生シタル損害ニ付テノミ論シ其保存ノ爲メ要シタル費額ニ付テハ別ニ論シタル所ナキコ在リ

第八百九十二條 借主ハ借用物ノ性質ニ依リ又ハ合意ニ依リ定マリタル用方ニ從ヒ且ツ貸借ノ期限内ニアラサレハ借用物ヲ使用ス可ラス

借主ハ他ノ用方又ハ期限後ノ使用ヨリ生シタル滅失又ハ毀損ノ責ニ任シ又意料外ノ滅失ト雖モ此使用ニ原由シタルモノハ其責ニ任ス可シ

註解

第八百九十二條 本條第一項ノ規則ハ全ク當然ノモノナリトス何トナレハ此規則タル合意ハ善意ヲ以テ且ツ双方ノ者合同ノ意思ニ從フテ實行セサル可カラストノ原則ニ基キテ定メタル所ナルヲ以テナリ(第三百七十六條)

第二項ノ規則モ亦自己ノ過失若クハ怠慢ニ依リテ他人ニ損害ヲ加フル者ハ之レカ補償ノ責ニ任セサル可ラストノ(普通原則ノ適用ニ外ナラス(第三百九十條)○蓋シ本條ニ於テハ只借主ノ爲シタル其借用物ニ付テノ不正ノ使用カ物品滅失ノ機會ト爲リタル場合ニハ借主ヲシテ借用物意外ノ滅失ニ付キ其責ヲ免レシメサル末項ノ規則ニ於テ或ル特別ノ嚴例ヲ見ルノミ然ルニ此規則ト雖モ其實普通原則ノ適用ニ外ナラサル可シ何トナレハ借主爲サ、ルノ義務ヲ有シナカラ其義務ヲ欠キタルモノナレハ別ニ催促ヲ

受ケスシテ借主自ラ其不正ノ使用ヲ止息スルノ遲滯ニ居リ即チ法律上當然遲滯ニ在ルカ故ニ(第四百四條)之ヲシテ意外ノ滅失若クハ抗拒ス可ラサル力ヨリ生シタル滅失ノ責ヲ免レシメサル者ナルヲ以テナリ○爰ニ法律上借用物ハ貸主ノ方ニ在リテモ等シク滅失シタルモノナル可キ場合即チ物品滅失ノ責ヲ貸主ニ歸ス可キ場合ヲ保貯セス(第五百六十一條第二項及ヒ第五百六十二條)然レモ是レ固ヨリ當然ノコトナリ是他ナシ然ラサレハ即チ借用物不正ノ使用カ其滅失ノ機會ト爲リタル場合ニハ借主其滅失ノ責ニ任ス可シトノ法文ハ絶テ精確ナラサルニ至ル可キヲ以テナリ蓋シ借主其借用物ヲ不正ニ使用セサルコトニ付キ法律上當然遲滯ニ在リト説キタル所ヲ擴張シ以テ借主期限ノ經過後別ニ催促ヲ受ケスシテ法律上當然其借用物ヲ返還スルノ遲滯ニ在ルヘシト

迄云フヲ得ス故ニ若シ借用物借主ノ方ニ滅失シタル際借主之レヲ使用セシメアラヌ又正式書類ヲ以テ遲滯ニ置カレタルコトナキハ普通法ニ從フテ借主其滅失ノ責ヲ免カル可キナリ(第五百六十一條第一項)

尙ホ佛法典第千八百八十條ニテ爲シタルカ如ク爰ニ明言スルヲ不用ナリト思惟スル所ノモノハ(借主其借用物ノ管理及ヒ保存ニ於テハ良家主(良管理者)ノ如ク爲サ、ル可ラスト)ノコト即チ是レナリ何トナレハ確定物ノ義務者ハ總テ物品管理及ヒ保存ノ義務ヲ有ス可シトノコトハ己ニ第三百五十四條第一項ニ於テ一般ニ説キタル所ナルヲ以テ爰ニ之レヲ再説スルハ無用ニ屬スルハ勿論尙ホ是ノ如キハ次條ノ規則ニ從フテ不精確且ツ不充分ノコトナル

第八百九十三條 其他借主ハ自己ノ物ヲ使用シテ借用物ノ滅失ヲ避クルコトヲ得ヘキカ又ハ自己ノ物ト借用物ニ共同ノ危険アリテ自己ノ物ヲ保全シタルキハ意外ノ場合又ハ抗拒ス可カラサル力ヨリ生シタル滅失ノ責ニ任ス

註解

第八百九十三條 實ニ法律ハ借主ニ命スルコ自己ノ物ヨリモ借用物ヲ保全スルコ一層周密ナランコヲ以テシ本條ニ佛法典第千八百八十二條ノ二个ノ嚴例ヲ取用シタリ是レ該法典モ亦タ羅馬法ニ摸倣シタル所ノモノナリ即チ第一ニ借主ハ成ル可ク借用物ヨリモ自己ノ物件ヲ使用スヘキモノトス何ントナレハ之ニ物件ヲ貸與シタルハ固ト其入用ナルカ故ニシテ且ツ其入用ナル時間ノニ貸附スルニ過キサルモノナレハナリ然レハ貸與物件ノ非時ノ

使用ヲ爲シタリトモ之カ爲メ損害ノ生セサリシキハ此嚴例ヲ推シテ賠償ヲ命スルニ至ルコトナキヤ疑ナシ唯タ非時ノ使用中其物件ノ滅失シタルキハ縱令ヒ意外ノ滅失ニ係ルキタリトモ借主不當ニ該滅失ヲ來シタルモノトシテ其責ニ任スヘキナリ
第二 貸與物件ト借主ノ物件トカ其同時ニ之ヲ使用シタルキト使用セスシテ共ニ其家ニ在ル間トチ問ハス同時ニ滅失ノ危害ニ瀕シタル場合ヲ假想セリ例ヘハ貸與シタル馬ト借主ノ馬ト共ニ之ヲ聯繫シタリシニ該テ河中ニ落ナタルキ又ハ二馬共ニ厩ニ在リタルニ火災將サニ其家ニ及ハントスルキノ如シ若シ借主時ノ迫ルヲ以テ一頭ノ外救フコトヲ得サルニ方リ自己ノ馬ヲ救フタルキハ抗拒ス可カラサル力アリタリト稱シテ貸與物件ノ責任ヲ免ガル、コ能ハス蓋シ貸借ハ一个ノ好意恩惠ノ所爲ニシテ借主ニ

命スルニ自己ノ物ヲ失フモ貸與物件ヲ失ハセルカ爲メ自己ノ力
 ノ及フ所ヲ盡スヘキ道義上及ヒ法律上ノ義務ヲ以テスルモノナ
 リ
 或ハ此嚴例タル借主ノ物件貸與物件ニ比シテ價格多キモノ適用
 大可カラスト唱フル者アリ其言ニ據ルニ斯クノ如キ場合ニ於テ
 二个ノ物件ヲ所有スル善良ノ管理者ハ必ス價格ノ多キ物ヲ助ク
 ルナルヘシ左レハ借主ハ其物件ノ價格多キモノハ之ヲ助クルコト
 得ヘキナリト云ヘリ
 然レハ二物中其一ニ付キ恩誼ヲ懷フヘキ義務アルモノハ其場合異
 ナルモノナリト謂ハサル可カラス尤モ實際ニ於テハ必ス自己ノ
 物ヲ助クヘシト雖モ貸主ニ滅失シタル貸與物件ノ價格ヲ辨償セ
 サル可カラス

以上二个ノ條例ヲ佛法典ヨリ取用シタルモ他ノ一例ハ之ヲ取用
 スヘキノ理アラサルナリ(第千八百八十三條)其嚴例ニ據レハ貸與
 物件ノ評價ヲ爲シタルモノハ意外ノ滅失ニ至ルマテ借主ノ責任ト
 爲スヘシトセリ是レ入額所得權ノ場合ニ於ケルカ如ク評價ヲ以
 テ賣買ニ等シキ効アルモノト爲ス場合ノ一ニ非ラサルナリ(第五
 十七條)且ツ此場合ハ第一ノ使用ニ因リ消費スル所ノ物件ニ係ル
 モノニシテ本條ノ場合トハ大ニ異ナルモノナリ故ニ貸與物件ノ
 評價ハ後日借主ニ責ヲ歸スヘキ滅失アリタルモノ其滅盡後物件ヲ
 評價スルノ困難ヲ避クルカ爲メ豫メ双方ニ於テ施シタル注意ナ
 リト看做スニ若カス
 又之ニ反シ佛法典(第千八百八十四條)ノ如ク若シ貸與物件カ單ニ
 正當ノ使用ニ因リ毫モ借主ノ過失ナクシテ毀損シタルモノハ其毀

損ノ責ナシト云フハ無益ナリ是レ最モ單簡ナル普通法ニシテ最モ
モ略易キ所ノモノナリ

第八百九十四條 借主ハ借用物保存ノ通常費ヲ負擔ス但シ貸主
ニ對シ討還ノ權ナシ

註解

第八百九十四條 本條モ亦タ少ク佛法典ト異ナル所アリ蓋シ佛法
典ハ借主ニ其物件ヲ使用スルカ爲メ加ヘタル費用ノ追還ヲ拒絕
スルニ止マレリ然レモ尙ホ一步ヲ進メテ之レニ保存費ヲモ負擔
セシム可キナリ例ヘハ其馬ヲ借用シタルルキハ適當ニ之レヲ養ヒ
之レニ釘裝シ其病ニ罹リタルルキハ馬醫ヲシテ診察セシム可キヤ
言テ俟タス但シ重疾又ハ長ク疾病ニ罹リタルルキハ其費用ヲ取戻
スコトヲ得又工業用ノ器械ニ關スルルキハ使用ノ爲メ必要ナル日常

ノ修復ヲ加ヘサル可ラス家屋ニ關スルルキハ借家修繕費ト稱シ賃
借人ノ負擔ス可キ費用ヲ拂ハサル可ラス(第三百三十五條)

第八百九十五條 借主ハ約束ノ期限ニ其借用物ヲ返還ス可シ又其
期限前ト雖モ約定シタル使用ヲ了リタルルキ又ハ貸主ノ爲メニ急
場不意ノ入用アルルキハ之ヲ返還ス可シ

若シ期限ヲ約定セスシテ借用物ノ使用ニ際限ナキ片ハ裁判所ハ
貸主ヨリ請求ノ上返還ノ爲メ相當ナル時期ヲ定ムヘシ

第八百九十六條 借用物ノ返還ハ其物ノ第三ノ人ニ屬スルコトヲ知
ルルキト雖モ貸主若クハ其代理人ニ爲ス可シ但シ法式ニ從ヒ第三
ノ人ヨリ右ノ返還ニ故障ヲ申立テタルルキハ此限ニアラス
此最終ノ場合ヲ除クノ外借主ハ貸主若クハ其代理人ノ住所ニ於
テ其借用物ヲ返還ス可シ

注解

第八百九十五條及ヒ第八百九十六條 物件返還ノ事タル借主ノ主
タル義務ナルモ佛法典ハ之ヲ規定スルヲ疎漏ナリ

本條ハ該返還ニ關スル三个ノ點ヲ規定ス即チ第一何レノ時ニ返
還ス可キカ第二何人ニ之ヲ爲ス可キカ第三何レノ場處ニ於

テ之レヲ爲ス可キカノ點是レナリ

第一 返還ノ時チ双方コテ特ニ定メタルキハ其合意ヲ以テ定メタ

ルキニ之ヲ爲ス可キヤ當然ナリ然レモ此約定タル明白ニ之ヲ爲

サルモ物件ノ使用ヲ指定シタリシキハ暗黙ニ之ヲ爲シタルモ

ト看做スヲ得ルイアリ例ヘハ旅行ノ爲メ馬ヲ貸與シ又ハ貸主

ニ於テ多寡ヲ知了シタル所ノ材料ヲ運搬スルカ爲メ運送車ヲ貸

與シ又ハ借主ノ家屋修復中住居ノ家屋ヲ貸與シタルキノ如シ此

際ニ於テハ貸主其物件ノ返還ヲ要求スル前馬車ノ往復又ハ修復

ノ竣功ヲ待タサル可ラサルヤ明カナリ又乘馬遊行馬車若クハ歡

樂ノ家宅ノ如キ其物件ノ使用繼續ス可キモノニシテ而シテ約束

ノ期限ナク又暗ニ時期ノ限界ヲ示ス所ノ機會モナキ借主尙ホ

借用物ノ入用ナル旨ヲ申立ツルニ於テハ裁判所コテ双方ノ意思

ヲ付度シ事實ノ摸樣ヲ推察シ以テ適當ノ猶豫期限ヲ定ム可キナ

リ

又法文ニ據レハ定期前タリモ二个ノ場合ニ於テハ貸主其物ノ返

還ヲ求ムルヲ得ルモノトセリ第一其使用期限前ニ終リタル時

蓋シ此場合ニ於テハ借主最早其物件ヲ保持スルノ正當ナル原因

アラサルヤ明カナリ而ルニ之ヲ返還スルヲ否拒スルヲアラハ

惡意アルモノト爲サル可ラス○佛國法モ亦同様ニ之ヲ斷定ス

ト雖モ使用貸借ノ定義ヲ下スニ方リ借主ハ物件ヲ使用シタル後返還スルノ義務ヲ負フテ之ヲ受取ルモノナリト云ヒ附從トシテ之ヲ述ヘタルノミナリ○此語辭タル偏ヘニ字義ノミニ拘泥シテ之ヲ解ス可ラス何トナレハ借主物件ヲ使用スルヲ延引スルノ甚シキニ過クルキハ貸主之レカ爲メニ害ヲ被フルヲナカル可クレハナリ

第二、貸主自カラ其物件ノ急迫ニシテ且ツ豫知セサリシ「入用ヲ生シタル」ハ定期前ト雖モ亦其返還ヲ要求スルヲ得是レ佛民法(第千八百八十九條)ニ取用シタル所ナリ○蓋シ使用貸借ハ一个ノ恩惠契約ニシテ貸主ハ其施ス所ノ利益ノ相當物ヲ受領スルモノニ非ラス而シテ其意思如何ナル時變起ルトモ全ク其物ニ付キ自己ノ需要ヲ欠カントスルニ在ルヘカラサルナリ○然リト雖モ亦

法文ニ記載スルカ如ク第一ニハ其需要ノ急迫ナルヲ要ス故ニ貸主期限ノ到ルヲ待ツヲ能ハス又己レニ屬スル他ノ物ヲ以テ之ニ代用スルヲ能ハサルヲ要ス第二ニハ約束ノ際其需要ヲ豫知セザリシヲ要ス若シ之ヲ豫知シタリシハ則テ貸主自カラ其物ノ使用ヲ爲サス又ハ他ニ同様ノ物件ヲ求ムヘキヲ承諾シタルモノト見做サルヘシ

第貳、借主ハ借用物件ノ實際何人ニ屬スルヤヲ懸念スルコ及ハス貸借後其第三ノ人ニ屬スルヲ覺知スルトモ貸主ニ之ヲ返還セサル可ラス○又其贓物タルヲ覺知シタル場合スラ猶ホ之ヲ例外ニ附セス
此例外タル佛法典ニ於テハ附託ノ場合ニノミ之ヲ准許セリ(第千九百三十八條)蓋シ借主ニ物件ヲ返還セサルカ爲メ發明シタル其

口實ヲ利用スルヲ准スヘキ理由アルコトナシ貸借ト附託トハ之ヲ
 同一視セサルヘキ充分ノ理由アリ貸借ニ就テハ物件ヲ受取ル者
 無償ノ利益ヲ得附託ニ就テハ之ニ反シ物件ヲ受取ル者却テ無償
 ノ利益ヲ與フ是レ二个ノ結果ノ由テ生スル所ナリ即チ利益ヲ受
 取ル者ハ返還ヲ怠ラス貸主ニ困難ヲ及ホサ、ルヘキ緻密ナル義
 務ヲ有スルモノナリ且ツ借主ハ贖物ノ些少ノ嫌疑アルチ奇貨ト
 シテ定期ニ返還セス之ニ許與シタリシ使用ヲ繼續セントスルノ
 恐アルヘキナリ然ルニ受託者ハ其物件ニ付キ負荷アルノミニテ
 之ヲ使用スルコト能ハサルカ故ニ正當ノ原因ナクシテ附託ヲ繼續
 センコトヲ求ムルノ嫌疑アルコトナキモノナリ
 然レモ貸借物カ盜取物タルト否トニ拘ラス借主若シ其物件ノ所
 有者ナリト稱スル第三ノ人若クハ貸主ノ辨濟ヲ得ンカクモ該物

件ヲ差押ヘント欲スル權利者ヨリ其返還ニ關スル適正ノ對抗ヲ
 蒙ムルハ借主貸主ニ返還スルノ義務ナク尙ホ法律上之ヲ許サ
 ス
 若シ貸主又ハ貸主ノ相續人無能力者ナル場合ニ於テハ其適法ノ
 代理人ニ返還ス可シ○若シ又貸主不在ニシテ其代人ヲ留置セシ
 キハ則チ此代人ニ返還ス可ク決シテ其貸主ノ家屋ニ存スル僕婢
 ハ勿論假令ヒ貸主ノ家族ト雖モ亦之レニ返還ス可ラス
 第參 概テ義務者ハ其住所ニ於テ辨濟ヲ爲ス可クシテ其返還ク
 ル之レニ汎博ノ意義ヲ附スルキハ是レ一箇ノ辨濟ナリ(第四百七
 十二條第一項)然レモ茲ニハ原則ニ抵觸スル全ク正當ナル規則ヲ
 設ケタリ蓋シ貸借カ恩惠ノ契約ナルニ因レリ故ニ借主ニ於テ貸
 主ノ住所ニ貸借物ヲ送致スルカ又ハ貸主無能力若クハ不在ナル

其代理人ノ住所へ之ヲ送致スルノ勞ヲ取ルハ公平ト情誼トニ適合スルモノナリ

第八百九十七條 若シ數人連合シテ同時又ハ各番ニ使用スル爲メ一個物ヲ借受ケタルハ各人連帶ニテ前數條ノ義務ヲ負擔スルモノトス

註解

第八百九十七條 夫レ連帶ハ義務ノ嚴重ニシテ且例外ニ屬スル變體ナリ。○若シ一箇物ニ付キ數多ノ義務者アルハ其各義務者ハ各々自己ノ部分ニ付キ義務者タルニ過キサルヲ以テ原則トス而シテ場合ニ從ヒ或ハ其部分ニ平等ナルアリ又ハ不平等ナルアリ但シ其平等即チ分頭詳言スレハ頭割(羅句語ニテ *Pronunero, victor* 自)ト云フ)ニテ計算スルヲ最モ往々ニシテ是レアリ然ルトキハ

其義務ヲ合併義務ト云フ(第四百六十條及ヒ同條註解第四百二十八號參觀)然レトモ合意上義務者中ノ一名ニテ義務全部ニ付キ訴ヘテ禁ムルコトアリ然ルハ此義務ヲ連帶義務ト云フ又或ル場合ニ合意ノ無キキニ於テ法律ハ義務者間ニ連帶ノ義務ヲ設定スルコトアリ而シテ茲ニ吾人ハ其一例ヲ論スルモノトス
此ノ如キ嚴則ハ佛蘭西法典(第千八百八十七條)ニ倣ヒシモノニシテ之レヲ證明スルコト容易ナリ即チ佛蘭西法典ニ虧缺スルモ我法文ニハ附記スルノ注意ヲ爲セシ如ク同時又ハ各番ニ使用スルカ爲メ數人連合シテ物品ヲ借受ルコトアリ此場合ニ於テハ貸主ハ同時ノ使用ニ關スル各自ノ部分ノ何程ナルヤ又引續テ各番ニ使用スルハ各自ノ使用スル時間ノ何程ナルヲ知ラサルコトアル可シ然ラハ則チ此場合ニ於テハ過度ノ使用又ハ濫用アル可クシテ其數

名ノ義務者又ハ一名ノ義務者ノ過失ニ依リ物件毀損スルコトアル
 ハ勿論尙ホ其滅失スルコトアル可シ故ニ貸主ハ義務者中ノ一名ヲ
 シテ損害ヲ補償セシムルハ正當ノコトナリ○又其物件返還ニ付テ
 モ之レニ同シ何トナレハ貸主物件ノ返還ヲ要スルモ其物何人ノ
 手ニ在ルヤヲ知ラサルヘケレハナリ
 連帶ノ詳細ニ關スル説明ハ第四編ニ至ラサレハ爲サ、ルベシ而
 シテ第四編ニ至ラハ佛蘭西ニ於テ充分爭議セル問題即チ法律上
 ノ連帶ハ合意上ノ連帶ト同様ニ廣大ニシテ又嚴重ナル効力ヲ發
 生スルヤ如何ヲ知了スルノ問題ヲ調査ス可シ
 然レトモ茲ニ吾人ノ論述スル場合ニ於テハ數多ノ借主間ニ共同
 利益アルニ因リ法律上ノ連帶ニ貸主ノ利トナル最モ廣大ナル効
 力ヲ附スルヲ以テ至當ナリト云フ可シ

借主ノ義務ニ關スル説明ハ本條コテ結了シタリ
 本條ニハ佛蘭西法典第千八百八十五條即チ借主ハ貸主カ己レニ
 對シ負擔スル所ノモノ、相殺ニ依リ貸借物ヲ留置クコト得スト
 ノ規則ヲ再述セズ○又此規則自カラ甚ク明瞭ナルニ非ス而シテ
 諸般ノ學者ハ各々此規則ノ解釋ヲ異ニセリ○若シ果シテ法律ハ
 貸與物ト借主ノ權利トノ異ノ相殺ニ關スルコトヲ說キタルモノト
 セハ是レ法律ハ無益ノコトヲ述ヘタリ何トナレハ同種ノ代用物即
 チ量定物間ニアラサレハ相殺ノ行ハル、モノニアラサレハナリ
 (佛蘭西法典第千二百九十一條及ヒ我草案第五百四十二條)然ルニ
 使用ノ爲メ貸與ヘタル物ハ確定物トシテ貸與ヘシモノニシテ即
 チ其原物ニテ返還スヘキニ因リ貸主借主ニ對シテ負擔シタル物
 ト同種ノ物ニアラス

己ニ佛法典ハ其第千二百九十三條第二號ニ於テ借主ノ貸借義務ト其貸主ニ對シテ有スル債主權ノ相殺ヲ禁シタリ○蓋シ吾人ハ此二個ノ規則ニ附スルニ有用ノ意義ヲ以テスル爲メニハ借用物ノ滅失ヨリ生スル損害賠償ト借主ノ貸主ニ對シテ有スル債主權ヲ相殺スルヲ禁セサル可ラスト思惟セリ是レ權利者其義務者ノ辨濟セサランコトヲ恐レ之レヲシテ物品ヲ貸與セシメ其物品ヲ讓渡シ次テ其物品讓渡ノ損害賠償ト義務者ノ己レニ對シテ負擔スル所ノモノトノ相殺ヲ主張ス可キ權利者ノ容易ナル詐術ヲ豫防スルノ一方法タリ○即チ本案ハ第五百四十八條第一項ヲ以テ此相殺ノ爲メ障礙ヲ設置セリ

然ルニ學者或ハ佛法典第千八百八十五條ニ附スルニ全ク異ナリタル意義ヲ以スル者アリ即チ其說ニ曰ク法律ハ借主ノ其債主權

ノ擔保即チ抵當トシテ借用物留置ノ權ヲ行フコトヲ禁シタルナリト

蓋シ此解釋タル場合ノ如何ニ從ヒ第千八百八十五條ニ無用若クハ不正ノ意義ヲ附スルモノナリ何トナレハ若シ借主ニ於テ其借用物保存ノ爲メ何等ノ必要費ヲモ要シタルコトアラヌ又何等ノ損害ヲモ受ケタルコトナシトセンニ語ヲ變ヘテ言ヘハ債主權ハ借用物ヨリ生シタルモノニアラストセンニ此場合ニ於テ留置ノ權ヲキ言ヲ待タスシテ明カナリ是レ留置權ノ執行ハ留置シタル物品ニ機會シテ生シタル債主權ニ限ル可キモノナレハナリ(本案第二條及ヒ第四編參觀是レ即チ己上ノ解釋ハ第千八百八十五條ノ規則ヲ無用ニ歸スルモノト爲ス所以ナリ若シ又之レニ反シテ留置ニ關スル通常ノ場合アリテ存スルモノトセン乎之レヲ禁スルノ

規則ハ不正タル可シ何トナレハ借主其貸借ニ於テ無償ノ利益ヲ
収受シタリトテ爲メニ留置ニ關スル普通權利ヲ失フノ謂レナキ
ヲ以テナリ○是ヲ以テ本案ハ本章ノ終リニ於テ借主ノ爲メ此留
置ノ權ヲ保貯セリ

第八百九十八條 貸主ハ借主ノ其借用物保存ニ關シテ爲シタル必
要急迫ノ費ヲ之レニ償還スルノ義務ヲ負擔ス

第八百九十九條 貸借物ニ不外見ニシテ貸主ノ知リタル瑕瑾アリ
タルニ借主之レヲ知ラス又貸主之ヲ借主ニ告知シ置カサル中ハ
貸主ハ其瑕瑾ニ依リテ借主ノ受ケタル損害モ亦賠償スルノ義務
ヲ負擔ス

註解

第八百九十八條及ヒ第八百九十九條 貸主ノ所謂眞ノ義務ナルモ

ノハ只二個ニ限リ而シテ其義務ハ貸借即チ合意ヨリ生スルモノ
ニアラスシテ義務ニ付テノ二個異別ノ原由タル不當ノ利得及ヒ
不正ノ損害ヨリ生スルモノナリトノハ前已ニ説キタル所ナリ
○是レ即チ本二條ノ主眼タル義務ナリトス
本案ニ於テハ(貸主ノ合意セシ期限前ニ若クハ借主其貸借ノ目的
タル用方ノ爲メ其借用物ヲ使用セサルノ前ニ其貸與物ヲ取返ス
ノ權利ヲ有セサルコトヲ以テ貸主ノ義務ト示定シタリト見ユル佛
法典第千八百八十八條ノ規則ニ等シキ規則ヲ爰ニ記載セス即チ
此場合ニ於テハ貸主ノ所謂眞ノ爲サハルノ義務アルニアラスシ
テ寧ロ權利ノ虧缺アリトノコトハ前已ニ説キタル所ナレハナリ○
且ツ貸主ノ期限前ニ其貸與物ヲ取返スノ禁制タルヤ他ノ方式ヲ
以テ借主ノ其借用物ヲ返還ス可キ期限ノ事項ニ於テ充分ニ説明

シアル所ナルヲ以テナリ(第八百九十條第一項及ヒ第八百九十五條)

然レモ此說ニ對シテ借主其借用物上ニハ使用ノ物權ヲ有セズシテ只貸主ニ對スル人權ヲ有スルニ過キストモ第八百九十條第三項ヲ引證シテ充分嚴格ナル駁撃ヲ試ルヲ得可シ即チ論者或ハ云フ者アラソ此人權カ正シク期限前ニ係ル返還ノ請求ヲ貸主ニ拒絕スルノ權利ニシテ其制裁タル貸主己ニ其貸與物ヲ取返シタルキハ借主ヨリ貸主ニ更ラニ之レカ交付ヲ強ヒ得ルノ訴權是レニシテ尙ホ貸主其貸與物ノ取戻ヲ請求シテ期限前ニ貸借ヲ終了セシメタル第三ノ人ニ其貸與物ヲ讓渡シタルキハ借主ハ貸主ニ對シテ損害賠償ヲ求ムルノ訴權ヲ有ス可シト然レモ吾人ハ常ニ使用貸借ニ付スルニ(不完全ナル双務契約ノ)名

義ヲ以テスル者アルニ拘ラス此契約ハ就中組成ノ當時ニ於テハ片務ニシテ其双務ト爲ルハ貸借物保存ニ關スル必要費ヨリ生ス可キ契約己後ニ係ル不期ノ所爲若クハ貸與物ノ瑕疵ヨリ生ス可キ有形ノ損害ニ依リテ後ニ(Ex Post facto)生スル所爲ニ起因スルモノト主張セント欲スルナリ

借主ハ貸主ニ對シテ人權ヲ有スト説キモハ則チ貸主己レニ向テ對抗ス可クシテ第三ノ人ニ向ツテ對抗ス可ラサル權利即チ貸主借主ノ受ケタル損害ヲ補償スルニアラサレハ剽奪スル能ハサルモ第三ノ人ハ貸主ノ違約ニ依リテ其固有ノ權利ヲ得可キニ拘ラス絶テ尊敬スルニ及ハサル權利ヲ借主ニ供與ストノ云ヒニ外ナラス○即チ貸主ハ自己ニ對スル權利ヲ借主ニ供與シ借主ノ利益ノ爲メ其物品ノ使用權ヲ放棄シ暫時之レヲ使用スルノ權利ヲ讓

渡シタルモノナルカ故ニ其自ラ供與セシモノヲ取返シ得サルハ
實ニ當然ノコト云フ可シ然レモ之レカ爲メ所謂眞ノ爲サ、ルノ
義務アリテ存スルコアラズ只他人ノ權利ヲ尊敬スルノ普通本分
アルニ過キス而シテ貸主其本分ヲ欠キ借主ヨリ裁判所へ訟ヘラ
ルハ是レ一ノ新所爲即チ貸借契約已後ニ係リ全ク之レト異別
ナル不正ノ所爲ニ起因シタルモノナリ○蓋シ此ノ難題タル己ニ
第三百十八條ニ於テ之レヲ論シ且ツ簡單ニ決定セシ所ナリ(第二
冊二十四葉乃至二十五葉註解參觀)

今ヤ是ヨリハ貸主ノ所謂眞ノ二個ノ義務ヲ見ル可シ
其第一義務ハ不當ノ利得ヨリ生スルモノナリ即チ借主其借用物
保存ニ關シテ必要費ヲ爲シタリト假定シ且ツ其費用ハ同時ニ急
迫ノモノナリト假定セン然ラサレハ借主其費用ノ必用ナルコトヲ

豫シメ貸主ニ告知シ之ヨリ認可ヲ受ケサル可ラサルヲ以テナリ
若シ貸主借主ニ其必要費ヲ償還セス又之レヲ償還シタルモ完償
セストセン乎是レ借主ヲ害シ原由ナク不正ニ利得セシモノナ
リ○蓋シ右ノ場合タル只普通法ノ適用ニ外ナラス然レモ就中此
事ニ關シテ第九百條ヲ以テ借主ニ許與セシ擔保アルノ故ヲ以テ
爰ニ前述ノコトヲ記載スルヲ無用トセス
法律ハ借主ノ爲シ得可キ有益費即チ其借用物ノ價額ヲ増加シタ
ル費用ノコトヲ記載セス是レ此費用タル第一ニ極メテ稀少ナル可
ク次ニ借主其爲スニ意ナク且ツ其償還ノ貸主ノ爲メ困難ナル可
キ費用ヲ之レニ負擔セシメ以テ其權利ヲ濫用スルコトアル可キヲ
以テナリ○何レノ場合ニ於テモ借主有益費ヲ爲シタルハ管理
人同様ノ待遇ヲ受ク可シ(第三百八十三條參觀)然レモ貸主ハ此費

用償還ノ爲メ猶豫期限ヲ得有スルヲ容易ニシテ而シテ第九百條ヲ以テ借主ニ許與シタル留置權タル此有益費ノ爲メニハ借主ニ關スルモノニアラサルナリ

貸主ノ第二ノ義務ハ貸借物ノ瑕疵ニ依リテ借主ノ受ケタル損害ヲ之レニ賠償スルノ義務即チ是レナリ

蓋シ此賠償義務ヲ負擔セシムル爲メニハ其瑕疵カ四個ノ性質ヲ具有スルヲ要ス即チ 第一 其瑕疵ハ不^〇外^〇見ナルヲ要ス然ラサレハ借主其瑕疵ヲ知ルヲ得又之レヲ知ラサル可ラサレハナリ 第二 其瑕疵ハ貸主ノ知リタルモノナルヲ要ス然レトモ貸主之レヲ知ラサリシトテ之レニ其責ヲ歸スルヲナシ何トナレハ貸主ハ無償ノ勤務ヲ爲シタルモノナルヲ以テナリ之レニ反シテ第八百十七條ニ於テ利付貸借ノ貸主ハ其貸與物ニ存スル瑕疵

ヲ知ラサリシ過失ノ責ニ任ス可キモノトセリ 第三 其瑕疵ハ實際借主ノ知ラサルモノナルヲ要ス然ラサレハ借主ハ其受ケタル損害ノ危険ヲ承認セシモノナルヲ以テナリ終リニ 第四 此瑕疵ヲ知リ居タル貸主借主ニ之レカ告知ヲ缺キタルヲ要ス蓋シ其告知ヲ缺キタルハ過失ニ過キサルヲアル可シ然レモ若シ其詐欺ニ出テタルモノナルキハ第八百七十七條及ヒ第三百九十條及ヒ第四百五條ニ從ヒ損害ノ責任ハ一層重キニ至ル可シ

第九百條 貸主前二條ニ基キテ負擔シタルモノヲ償還スル迄借主ハ其借用物留置ノ權ヲ行フヲ得可シ

註解

第九百條 前二條ニ基キ貸主ノ負擔シタル義務償還ノ爲メ抵當トシテ借主ノ擔保ニ供シタル留置權ハ果シテ如何ナルモノナルヤ

ノ一ハ前已ニ説キタル所ナリ
即チ己ニ第二條ニ掲載シタル此物上抵保ニ關シテ必要ナル説明
ヲ與フルハ第四編ニ於テス可シ即チ第四編ニ於テ此物上抵保ハ
如何ナル點ニ於テ所謂眞ノ抵當ト類似シ又如何ナル點ニ於テ之
ト異ナルヤノ一ヲ見ル可シ

蓋シ本條ハ別ニ充分ナル理由ナクシテ借主ニ此留置ノ權利ヲ拒
絶セシト見ユル所ノ佛法典(第千八百八十五條)ノ規則ト異ナルモ
ノト見做スヲ得可キナリ

第十九章 寄託及ヒ監守

第一款 通常ノ寄託

第九百一條 通常ノ寄託ハ一人ヨリ他ノ一人ニ動産ヲ交付シ之ヲ
受取りタル者之ヲ保管シ請求次第原物ノ儘之ヲ返還ス可キノ

契約ナリ

此寄託ハ必ス無償ナル可キモノトス
又寄託ニ單ニ隨意ノモノト止ムヲ得サルモノトノ二種アリトス

註解

第九百一條 佛法典ハ通常ノ寄託ト監守トニ普通ナル定義ヲ下サ
ントシタリ故ニ二个ノ寄託共ニ所爲ノ稱ヲ附セサル可ラサルニ
至リタリ(第千九百十五條)何トナレハ監守ハ往々裁判所ヨリ命ジ
タル寄託タルヲ多ク此場合ニ於テハ契約ヲラサルモノナレハナ
リ
然レハ通常ノ寄託ハ之ヲ監守ト別離シテ直チニ契約ノ稱ヲ附ス
ルヲ更ニ簡易ナリトス
寄託契約ハ使用貸借ト類似スル所アリ然レハ亦之レト異ナル所

アリ

(甲) 其之レニ類似スル所左ノ如シ

第一 寄託ハ實行契約ナリ詳言スレハ寄託者ヨリ受寄者ニ實際物件ノ交付ヲ爲スコ因リ成立スルモノナリ

實ニ受寄者ハ其物件ヲ保管シ次テ之ヲ返還ス可キモノナレハ未タ受取ラサル前ニ保存シ返還スルノ義務アル可ラサルヲ言テ俟タスシテ明ナリ

且ツ寄託ニ付テモ亦タ使用貸借ニ適用スヘキ一事アリ此事ニ付テハ使用貸借ヲ論スルニ方リ既ニ注意ヲ加フ可カリシ偶々之ヲ脱漏セリ即チ將ニ寄託セントスル物件ノ既ニ他ノ名義ニテ受寄者ノ掌中ニ存スルキハ其占有ヲ寄託ニ變ジシムルカ爲メ双方ノ承諾ノミヲ以テ足レリトスルコト是レナリ是レ既ニ第二百三條ニ

説明シタル「手短」ノ引渡ト稱スル想像上ノ引渡ナリ例ヘハ使用借主ヨリ借用物ヲ返還セントチ供述シタルキ貸主當時之ヲ受取ルニ於テハ不便ナキヲ能ハサルノ故ニ借主ニ請フニ寄託トシテ之ヲ保管セントチ以テシタルキノ如シ又貸借人ノ貸借終了ノ後寄託トシテ賃借物件ヲ保管セントチ請求セラレタルキモ同一ナリ
○斯ク使用貸借又ハ賃借ヲ寄託ニ變スルハ物件掌握者ノ責任ニ付キ頗フル重要ナルモノトス蓋シ寄託ノ場合ニ於テハ其責任他ノ二个ノ契約ノ場合ニ比スレハ頗フル輕シト爲ス

附言 第二百三條ニ「手短」ノ引渡ノ定義ヲ下シタリシ今之ヲ見ルニ未タ以テ足レリトセス○該條ハ假定ニ過キサリシ占有ノ所有者ノ名義ニ於ケル占有ニ變シタルコトヲ假定シタリシカ本條ニ想像スルカ如ク假定ノ占有ヲ他ノ同シク假定ナル占有ニ變

スルニ付テモ亦ク手短ノ引渡セアルヲ得ヘシ
又所有者物件ヲ賣渡セタル後獲得者ノ之ヲ受取ルコトヲ得ルニ至
ルマテ寄託ノ名義ヲ以テ之ヲ保有スヘキノ囑託ヲ受ケタル場合
ニ於テモ實際ノ引渡ヲ爲スト無益ナリ此合意ヲ稱シテ「占有設定」
ト云フ(同第二百三條ヲ看ルヘシ)

其實假想ハ同一ナリ即チ讓渡ヲ爲シタル者ハ其賣主タル義務ヲ
免カル、カ爲メニ新所有者ニ物件ヲ引渡シ然ル後直接ニ同物ヲ
寄託トシテ受取りタルモノト看做スモノナリ之カ爲メ其責任減
輕スルモノトス蓋シ賣主ハ引渡ニ至ルマテ賣渡物件ニ加フルコ
善良ナル管理者ノ注意ヲ以テセサルヘカラサルニ(第三百五十四
條)受寄者ハ平常自己ノ財産ニ加フルト同様ナル注意ヲ寄託物件
ニ加フルヲ以テ足レリト爲ス後段之ヲ説カフ

以上述フル如ク寄託ノ性質ハ實行契約ナルモ後日寄託トシテ一
物ヲ收受セシコトヲ約スルノ妨ケアルコトナシ然レモ是レ未ダ寄託
トラスシテ其物件ヲ受取ラサル以上ハ保存返還ノ義務生セス一
ノ無名契約ナリトス

第二 寄託ト使用貸借トノ第二ノ類似ハ其勞務ノ無償ナルニ在
リ若シ受寄者賃銀ヲ受クルモノトセンカ勞務ノ賃貸若クハ物品
ノ賃貸アル可シ(例ヘハ倉庫ノ賃貸ノ如シ)○然レモ又他日受寄者
其注意ノ(報酬金)ヲ受クルヲ得且ツ之レヲ受クルノ場合ニハ受寄
者ノ怠慢ニ付キ多少嚴格ナル査定ヲ要スルコトヲ見ル可シ然レモ
此報酬金ハ賃銀ト異ナリ受寄者ノ利益ニアラサレハ其報酬ヲ受
クルコトアルコト拘ラス寄託ハ常ニ其本性上無償ナリト云フヲ得可
キナリ

第三 寄托ト使用貸借トノ第三ノ類似ハ其組成ノ當時ニ片務ナル契約カ意外ノ事件ニ依リ後日突然双務ト爲ルニ在リ是レ慣習上不完全ナル双務ト稱スルモノナリ然レモ使用貸借ニ於テ注意セシカ如ク寄托者ノ義務ヲ生スルハ其實合意ニアラスシテ受寄者物品保存ノ爲メ費用ヲ爲シタルモノ不當ノ利得若クハ寄托物上ニ存セシ瑕疵ニ依リテ生シタル損害賠償ニ起因スルモノタル可シ○蓋シ此場合ニ於テハ契約ノ片務ノ性質ニ付テ疑惑ノ存スルニ極メテ少シ何トナレハ使用貸借ノ貸主ノ爲メ定メタルカ如ク寄托者ノ爲メニハ期限前ニ寄托物ヲ要求スルノ禁制アルコトヲ受寄者其受寄物返還ノ要求ヲ受クルニ於テハ之レカ保存ヲ主張スルヲ得サレハナリ(但シ物品ノ瑕疵ヨリ生シタル損害賠償ノ擔保トシテ受寄者ニ供與セシ物品留置ノ權アリテ存スルモノハ格

別ナリトス)

第四 此二個契約間最終ノ類似ハ原物ニテ其寄托物ヲ返還スルノ義務即チ是ナリ○而シテ寄托物金額ヨリ成レルモノハ其金額開封ノモノナリト雖モ寄托物ノ確定物ナルモノト等シク原物ノ儘ニテ之レヲ返還スルノ義務アリトス○蓋シ慣習上變則ト稱スル此寄托ハ第五百四十八條第二項參觀受寄者ノ其受寄金額ヲ使用スルヲ許サス然レモ實際ニ於テハ受寄者ノ交付セシハ果シテ同一ノ貨幣ナリヤ又ハ同種異別ノ貨幣ナリヤヲ知ルコト頗フル難ク又之レヲ知ルノ利益アルコトナシ(金貨、銀貨、紙幣)○然レモ寄托者受寄者ニ其寄托金額ヲ使用スルコトヲ認許スルコトアリ即チ受寄者之レヲ使用スルモノハ其金額ノ借主ト爲リ而シテ縱令ヒ明瞭ニ期限ヲ許與シアラスト雖モ借主ハ裁判所ニ請求シテ其期限ヲ得有スル

トテ得可シ是レ蓋シ最早單純ナル寄托ノ場合ニアラスシテ未必
條件ヲ以テ爲シタル任意ノ消費貸借ノ場合ナル可ケレハナリ
〔乙〕今ヤ寄托ト使用貸借トノ間ニ存スル差別ヲ左ニ見ントス
第一 勞務ヲ受クル使用借主ノ責任ト其勞務ヲ爲ス受寄者ノ責
任ノ輕重ニ關シテ二個ノ契約間ニ存スル差別ハ前己ニ説明シタ
ル所ナリ

第二 使用借主ハ其貸借ノ目的タル用方ノ爲メ其借用物ヲ使用
セサルノ前ニ貸主ヨリ受ク可キ貸與物返還ノ請求ヲ拒絕スルヲ
得可シト雖モ受寄者ハ寄托者ノ請求次第其受寄物ヲ直チニ之レ
ニ返還セサル可ラス

第三 使用借主ハ借用物使用ノ權利ヲ有スト雖モ受寄者ハ其寄
托物ヲ使用スルヲ得ス然レハ附托者受寄者ノ其寄託物ヲ使用

スルヲ認許シ得可ク而シテ其契約ハ變シテ使用貸借ト爲ルヲナ
シ例ヘハ寄托物一個ノ馬匹ナリトセンニ受寄者寄托者ノ許ヲ受
ケテ之ヲ使用スルキハ之ヲ使用セスシテ其家ニ繋留シ置キタル
キヨリハ一層嚴密ノ注意ヲ加ヘサル可ラス然レハ使用借主ノ爲
メ定メタル嚴則ハ之レニ適用ス可ラサルナリ

第四 使用貸借ニ於テハ家屋若クハ土地ヲ貸與スルヲ得可シト
雖モ寄托ノ目的物ハ只動産ニ限ルモノトス故ニ一家屋ノ監守ヲ
人ニ托セント欲スルモノハ之ヲ監守セシムルノ委任契約ヲ爲サ
ル可ラサルナリ

第五 使用貸借ハ常ニ隨意ニ出ツルモノナリト雖モ寄托ハ時ト
シテハ不得止事情ヨリ生スルコトアリ
爰ニ序ヲ以テ注意シ置ク可キコトアリ本案ニ於テハ佛法典及ヒ其

他ノ外國法典ニ倣ヒ寄托ヲ別ツテ隨意ノ寄托并ヒニ不得止ノ寄托ノ二種ト爲シタリト雖モ他ノ外國制法ニ於ケルト同一ノ有益ヲ見ルコトナカラシメテ佛法典ノ寄托ヲ區別シテ隨意ノ寄托不得止ノ寄托ノ二種ト爲シタルニ於テ二個ノ利益アリ即チ隨意ノ寄托ニ於ケルヨリハ不得止ノ寄托ニ於テハ證據ノ極メテ簡易ナルヲ并ヒニ寄托物ノ返還ヲ確保スル爲メ不得止ノ寄托ノ受托者ニ對シテハ民事拘留ヲ用ユルヲ得可キモ隨意ノ寄托ノ受寄者ニ對シテハ之レヲ用ユルヲ得サルヲ是ナリ

蓋シ此第二ノ差別タルヤ民法ニ於テ一般ニ民事拘留ヲ廢シタルヲ等シク削除セラレタル所ナリ(千八百六十七年七月二十二日ノ法令)○其第一ノ差別ニ至リテハ今尙ホ存スル所ニシテ不得止ノ

寄托ハ其價額ノ如何ニ拘ラス人証ヲ以テ之レカ存立ヲ證スルヲ得可シト雖モ隨意ノ寄托百五十(フランク)已上ノ價額ヲ有スルモノハ之レヲ証スルニ人証ニ依ルコト能ハサルナリ

日本ニ於テハ未タ證據ニ關スル普通法ヲ設定セズ其事項ハ即チ第五編ノ目的タル可シ○即チ日本ニ於テモ證據法ヲ設定スルニ當リテハ訴訟ノ數ヲ減スル爲メ恐クハ人証ニ或ル制限ヲ設クルニ至ル可シ然ルニ之レカ制限ヲ設定スルニ至ルモ其制限ハ不得止寄托ノ證據ニ關セスシテ隨意ノ寄托ニ關スルカ故ニ今ヨリ二個寄托ノ間ニ區別ヲ設クルモ亦無用ヲラサルナリ

第一節 隨意ノ寄托

第九百二條 隨意ノ寄托トハ寄託者カ寄托ノ時日場所及ヒ受寄者其人ヲ自由ニ撰擇シ得タル場合ニ爲セシモノヲ云フナリ

註解

第九百二條 隨意ノ寄託ト止ムヲ得サル寄託トチ接近スルキハ錯誤ヲ生スルコトアル可キニ因リ茲ニ之ヲ像見シ以テ隨意ノ寄託ノ釋義ヲ下スチ有益ナリト信ス、偕テ此二個ノ寄託ハ共ニ契約ニ相違ナケレハ乃チ意欲ト承諾トチ要スルモノナリ但シ止ムチ得ザル寄託ノ場合ニ於テハ寄託者ハ法律上ニ於テハ寄託ヲ爲スト爲サ、ルトノ自由ヲ有スルモノナレト實際ニ於テハ不幸ナル景狀即チ火災又ハ洪水ノ爲メ殆ント餘義ナクセラレタルモノニシテ受寄者ヲ擇ヒ寄託ノ時日場所ヲ撰擇スルノ時間チ有セサリ、チ又該寄託者ハ或ル滅失ヲ避ケンカ爲メ不信切ナル受寄者ヲ用ユルノ危險ヲ蒙ムルコトヲ擇ヒタルモノナリ○然ルニ純然隨意ニ出ツル寄託ニ關シテハ寄託者ハ寄託ノ時日場所殊トニ受寄者ヲ

撰擇スルニ充分ナル時間チ有スルモノナリ
右二個ノ場合就中止ムチ得サル寄託ノ場合ニ於テハ寄託者ノ承諾ハ默認タルコトアルヘシ而シテ自己ノ家内ニ或ル物件ノ寄託セラレシコトヲ知了シ且其物件ヲ速カニ持去ルコトヲ請求セサル受寄者ハ其寄託者ニ於テ他ニ一層信切ナル受寄者ヲ發見スル時チ有スルマテ其寄託物ヲ保存スヘキモノナリ
佛蘭西法典ハ隨意寄託ノ義解ニ付キ適宜ノ解釋ヲ下サ、リシナリ(第千九百二十一條)即チ該法典ハ其他正式ヲ要セサル一切ノ契約ニ適用ス可シ蓋シ是レ其承諾ノミチ要セシカ故ナリ而シテ該法典ハ寄託ニ欠ク入カラサル引渡ヲ要スルコトヲ脫漏セリ他又由シヤ更ラニ此引渡ナル條件ヲ記載セシモノトスルモ尙ホ該法典ニ對シテハ既ニ第千九百十五條ニ附與セシ一般ニ涉レル寄託ノ

釋義ヲ再述スルコト且常ニ隨意ノ寄託ト止ムヲ得サル寄託トノ
 差異ヲ明示セサルコトヲ非難スヘキナリ○該法典ニ就テハ止ム
 ヲ得サル寄託ノ性質第千九百四十九條ニ依憑スルコアラサレハ
 右二箇ノ寄託間ニ存スル差異ヲ認定スルニ至ラサルヘシ
 契約ニ瑕疵アルノ場合ニ至リテハ爰ニ詳説スルコ及ハス若シ契
 約ノ瑕疵寄託者ヨリ生シ寄託者其寄託物ヲ取り違へ又ハ受寄者其
 人ヲ取り違へタルキハ(附言アリ)其錯誤ヲ矯正スル極メテ簡易ニ
 シテ寄託者其契約ヲ無効トスルノ請求ヲ爲スニ及ハス直チコ其
 寄託物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得可シ何トナレハ受寄者ハ寄託ニ
 付キ毫モ利益ヲ有セサルカ故ニ從ツテ其寄託物ヲ留置スルニ何
 等ノ權利ヲモ有セサレハナリ(但シ寄託物保存ニ關シテ己ニ費用
 ヲ要シタル場合ノ此限ニ在ラサルハ勿論ナリ)○然レモ或ハ受寄

者燃燒質若クハ爆烈質ナル物品又ハ贓品ノ如キ危險ヲ來ス可キ
 物品ナルヲ知ラス或ハ寄託者ヲ取り違へタリトモシカ寄託ニ付
 テ紛議ノ生シタルキハ受寄者ハ裁判所ニ申述シテ其錯誤ヲ認知
 セシメ以テ寄託物保存ノ義務ヲ取消サシメサル可ラサルナリ
 附言 蓋シ佛語ニテ(寄託)ナル語ハ物品ヲ寄託スル契約自ラヲ示
 指シ又寄託物ヲ示指スルニ用ユル所ナリ

第九百三條 寄託ハ其物品ノ所有者ノミナラス尙ホ其他總テ之カ
 監守保存ニ利益ヲ有スル人又ハ是等ノ者ノ代理人モ亦之レヲ爲
 スコトヲ得可キモノトス
 無能力者ノ適法名代人モ右同様ニ寄託ヲ爲スコトヲ得可シ

註解

第九百三條 本條ニテハ寄託者ニ要スル能力ヲ論シ次條ニ於テハ

受寄者ニ要スル能力ヲ説ケリ
 佛法典(第九百二十二條)ニ於テ(寄託物ノ所有者自ラ爲スカ又ハ
 其承諾ヲ以テ爲スニ非ラサレハ寄託ハ適法ナル可ラスト)云フニ
 過キサレハ此點ニ付テ佛法典ハ未タ全ク精確ナラス○先ツ何人
 ト雖モ物件上ニ物件ヲ有スル者ハ之レヲ寄託スルヲ得可シ故ニ
 動産ノ收用者、賃借者、動産質ヲ有スル權利者ハ其收用權ヲ有スル
 物品、賃借物、質物ヲ有効ニ寄託スルヲ得可シ但シ其怠漫不信切
 ナル受寄者ヲ撰擇シタルモ所有者ニ對シテ其責任ヲ有スルハ勿
 論ナリ○然レモ寄託者必ラスシモ物品上ニ物權ヲ有スルヲ要
 セス故ニ使用貸主ハ勿論受寄者ト雖モ其借用物寄託物ヲ第三ノ
 人ニ寄託スルヲ得可シ是レ即チ本條ニ於テ殊ニ注意ヲ加ヘ寄託
 ヲ爲スノ權利ヲ有スル爲メニハ(物品ノ監守並ヒニ保存ニ利益ヲ

有スルヲ以テ)是レリト説キタル所以ナリ○是ヲ以テ己ニ期滿効
 ニ依リテ物品ヲ獲得セントスル正當ノ名義ヲ有セサル占有者ハ
 其占有物ノ寄託ニ利益ヲ有スルカ故ニ之レヲ寄託スルノ權利ヲ
 有ス可シ
 己上何レノ場合ニ於テモ寄託ヲ承認シタル受寄者ハ寄託者其寄
 託物ノ所有者ナラサルヲ口實トシテ約束ノ期限前ニ物品ノ返還
 ヲ主張スルヲ許サス
 本條第二項ニ於テハ無能力者ノ適法ノ名代人ニ寄託ヲ爲スノ權
 利ヲ認知シ之ノミニニ依テ無能力者自ラニハ此權利ヲ禁シタリ○
 受寄者ハ無能力ナル寄託者ニ對シテ其寄託物保存ノ入費就中寄
 託物ヨリ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得サルカ故ニ又己レノ
 爲メ損失ノ危險アル寄託物保存ノ義務ヲ有セス○蓋シ原則上嚴

格ニ論スルキハ無能力者ト爲シタル契約ノ無効ヲ請求スルノ訴
 權ハ無能力者ニ屬スルモノニシテ能力ヲ有スル契約者ニ屬ス可
 キモノニアラサルナリ(第三百四十條)然レモ寄託契約ハ受寄者ノ
 方ニテ無償即チ其厚意ニ出テタルモノナルカ故ニ之レニ對シテ
 寄託物保存ノ義務ヲ負擔セシムルハ實ニ嚴ニ過キタルコトナル可
 シ何トナレハ此寄託物ノ保存タル受寄者ノ爲メ出費若クハ損害
 ノ原由タルニ拘ハラズ受寄者之レカ賠償ヲ受クルノ權利ヲ有セ
 サレハナリ故ニ此場合ニ於テハ受寄者無能力者ノ適法ノ名代人
 ニ對シ或ハ寄託ノ確認或ハ寄託物ノ取返ヲ請求スルヲ得可キナ
 リ

若シ又無能力者ノ適法ノ名代人自ラ寄託ヲ爲シタルニ於テハ此
 寄託ハ總テ法律上ノ効力ヲ生ス可シ

本條第一項ニ說シ所ノ物品ノ所有者其他物品ニ利益ヲ有スル者
 ノ合意上ノ代人ニ於テ爲シタル寄託ニ付テモ亦同シ

**第九百四條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニアラサレ
 ハ受諾スルヲ得サルモノトス**

然レトモ無能力者ハ尙ホ其手ニ現存スル受寄物又ハ其受寄ニ付
 キ利得シタル有價物ヲ民事上返還スルノ義務ヲ負擔ス但シ此民
 事上ノ義務ハ受寄財物ニ關スル罪アル場合ニ於ケル刑事訴權ヲ
 妨ケサルモノトス

注解

第九百四條 本條ハ結約スルノ無能力ナル受寄者ノ事ヲ定ムルモ
 ノナリ蓋シ無能力者ニ物件ヲ委テタル寄託者ハ責任ノ限リアル
 人ヲ撰擇シタルノ責ヲ己レニ歸セサルヘカラサルヤ當然ナリ

然レモ余輩ハ全ク無能力者ノ責任ナシト官フニ非ラス法文ニ無能力者ノ未ク全ク訴訟ヲ免カレサルコトヲ特記セリ其指定スル場合三个アリ

第一 無能力ナル受寄者尙ホ寄託物ヲ現物ノ儘ニテ占有スルキハ取戻訴權アリタルト寄託者ノ占有訴權アリタルトヲ問ハス之ヲ返還セサルヘカラス決シテ自カラ其無能力ヲ憑キ他人ノ財産ヲ留置スルコト能ハス

第二 受寄者物件ヲ讓渡シ又ハ之ヲ消費シタリ此場合ニ於テハ未ク讓渡ノ收領ヲ消費セサルカ又必要ナル使用ニ依リ物件ヲ消費シテ自己ノ財産ヲ貯蓄シタルカ故ニ正當ノ原因ナク利益ヲ得ルヲ以テ此利得ノ相當額ヲ返還スルヲ至當ナリトス

第三 現存ノ利得ナク寄託物ヲ隠藏又ハ消費シタリ此際ニ於テ

ハ刑法上責ニ任スヘク背信ノ罪タルコトアルヘシ是レ刑法ニ豫定シ處斷セル犯罪ナリ若シ無能力者カ有夫ノ婦ナルキハ其刑法上ノ責任全ク又其十二年以上二十年以下ノ未丁年者ナルキハ法律上ノ宥恕ニ因リ其責任減少スヘシ又其是非ヲ辨別セス若クハ精神錯亂シタルキハ全ク刑法上ノ責任ヲ免カルヘシ是レ本條ニ「場合ニ依リ」刑事訴權アリト云フ所以ナリ

第九百五條 受寄者ハ寄託物ノ監守及ヒ保存ニ付キ自己ノ財産ニ加フル注意ト同一ノ注意ヲ爲ス可シ

然レモ受寄者ヨリ寄託ヲ受ケンコトヲ求メタルカ又ハ單ニ受寄者ノ利益ノ爲メ且ツ要用ノ節ハ其寄託物ヲ使用スルコトヲ許シテ寄託ヲ爲シタルキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スノ義務アリトス此終リノ場合ニ於テハ第八百九十三條ヲ之ニ適用スヘシ

註解

第九百五條 受寄者ハ無償ノ役務ヲ爲スヲ以テ之ニ委託シタル物件ノ監守ニ付キ過失懈怠ノ責アリトモ之ヲ査定スルニ寛恕ヲ專テセサル可ラス

羅馬以來ノ舊慣ニテ受寄者ハ自己ノ事務ニ加フル所ト同一ノ注意ヲ施スヲ以テ足レリトセリ蓋シ寄託者注意ノ淺キ受寄者ヲ撰シタルハ其責ヲ己レニ歸スルノ外アラサル可シ
或ハ之レニ反シ受寄者ニ特ニ注意深キ場合ニ於テハ寄託者之ニ責ムルニ其平常之ニ屬スル物件ニ加フルト同一ノ注意ヲ寄託物ニ加ヘサリシヲ以テスルヲ得可キヤ否ヤヲ疑フ者アリ○此點ニ付テハ然リト答ヘサル可ラス蓋シ此場合ニ於テ寄託者ノ此受寄者ヲ撰擇セシハ必ス其平常ノ處務宜シキヲ知ルカ故ナル可ク

少クモ善良ナル管理者ノ注意ヲ加フ可キヲ特ニタルモノナル可シ

佛法典ハ本條ト同一ノ原則ヲ定メ(第千九百二十七條)次條ニ至リ四个ノ例外ヲ設ケタリ○然レハ我輩ハ只其二个ノミヲ取用シテ受寄賃金ヲ收受スル第二ノ場合ト一切ノ過失ヲ受寄者ニ於テ擔當ス可キヲ約シタル第四ノ場合トハ敢テ之ヲ取ラサル可シ
賃銀ニ關シテハ余輩ハ眞ノ受寄者之ヲ收受スルヲ認メサルナリ若シ之ヲ收受スルニ於テハ此一事ノミニテ勞力ノ賃借人トナル可キナリ蓋シ寄託契約ハ必ス無償ナル可キモノナリ故ニ之ニ賃銀ヲ附スルハ余輩ノ會得シ難キ所ナリトス
佛法ニ於テ例ヘハ受寄者寄託物ヲ排置スル爲メ自己ノ所有物ヲ取除クノ勞若クハ寄託物ヲ排置スル勞ノ如キ寄託物ヨリ生ス可

キ或ル負擔ノ爲メ確定シタル賠償ヲ約權シタル場合ヲ示指シタ
 リト雖モ此賠償タル決シテ眞ノ所謂(貸銀)ニアラサルナリ何トナ
 レハ受寄者右ニ關シテ何等ノ利益ヲ有セサレハナリ又銀行ニ於
 テ確定シタル若干ノ手数料若クハ金高相當ノ手数料ヲ受ケテ承
 諾スル金額若クハ權證ノ寄託又ハ貸銀ヲ拂フテ荷物倉、船倉、商品
 倉等ニ爲ス商品ノ寄託ノ場合ヲ示シタリト雖モ是等ノ事ニ至リ
 テハ名ヲ主トシテ實ヲ忽コセシモノト云フ可シ即チ是等ノ場合
 ハ實ノ勞務ノ賃貸ノ場合ニシテ實際ニ用ユル所ノ(寄託)ナル名稱
 ハ不精確ノモノタル可シ
 蓋シ吾人ハ他ノ場合ニ於ケルト等シク此場合ニ於テモ合意ハ双
 方間ニテハ法律ヲ爲ス第四ノ場合ヲ以テ他ノ理由トシテ爰ニ記
 入セサルカ故ニ別ニ之レヲ詳論スルニ及ハサルナリ

之レニ反シテ他二箇ノ場合ハ其稀少ナルニ拘ラス之レヲ認許セ
 サル可ラス

第一 最初ノ場合ハ受寄者好シテ寄託ヲ受クルノ場合即チ是レ
 ナリ此場合ニ於テハ寄託者只或ハ物品ノ盜難或ハ其現在スル場
 所ニ於テハ物品ニ自然ノ毀損ヲ生スルノ恐レアルカ如キ物品ニ
 關シテ存スル或ル不安心ナルヲ証スルニ止マリ其寄託ヲ請ハ
 サルニ受寄者自ラ好シテ寄託ヲ受ケンヲ主張シ若クハ他ノ受
 寄者ニ代リテ自ラ受寄者ヲランヲ請ヒタリト假定セサル可ラ
 ス

又單ニ受寄者ノ利益ノ爲メ寄託ヲ爲シタル場合ニ至リテモ等シ
 シ稀レナル可シ而シテ此設例タル最初一見スル所ニ依レハ頗フ
 ル奇怪ナルカ如キヲ以テ法律ハ此設例ノ實際生出ス可キ場合ヲ

爰ニ示指シタリ例ヘハ要用アルニ際シ使用ノ爲メ或ル物品ヲ貸
 與ス可キヲ約定シ置キタルニ其需用急迫ニシテ貸主遠隔ノ地
 ニ在リ速カニ貸借ヲ實行スル能ハサルニハ先ツ將來ニ係ル未定
 ノ借主ニ寄託トシテ物品ヲ交付シ置クカ如キ場合即チ是ナリ即
 チ此場合ニ於テハ受寄者物品上ニ借主ノ注意ヲ加エサル可ラサ
 ルモノニシテ本條ノ末項明カニ之レヲ示定セリ

第九百六條 前條ニ豫定シタル終リノ場合ヲ除クノ外若シ寄託物
 ト受寄者ノ所有物トニ共同ノ危険アルニ際シテ受寄者其中一ヲ
 救フヲ得ルニ止マルニハ受寄物ノ價格優等ナルヲ判明ナルニ
 於テハ之ヲ救ハサルヘカラス但シ自己ノ物件ノ價格ヲ寄託者ニ
 賠償セシムルヲ得ヘシ

註解

第九百六條 第八百九十三條ニ於テハ使用借主ニ負ハシムルニ受
 寄者ニ負ハシムルヲ得サル例外ノ責任ヲ以テセリ○即チ借主ノ
 所有物ト其借用物トニ共同ノ危険アリテ生シタルニハ縱令ヒ借
 用物ノ價額其所有物ノ價額ヨリ下リタルニト雖モ先ツ借用物ヲ
 救ハサル可ラス若シ然ラスシテ其所有物ヲ救ヒタルニハ其危険
 ノ爲メ滅失シタル借用物ノ價額ヲ賠償セサル可ラストノコトハ前
 己ニ見タル所ナリ○然ルニ自己ノ爲メ他人ヨリ勞務ヲ受ケタル
 ノ故チ以テ使用借主ノ爲メ要メタル此嚴例ヲ以テ他人ノ爲メ勞
 務ヲ爲シタル受寄者ニ適用スルコト能ハヌ
 然レモ又受寄者常ニ其受寄物ヲ置テ先キニ其所有物ヲ救ヒ得ル
 モノト思惟ス可ラス
 本條ニ於テハ受寄者先ツ其受寄物ヲ救ハサル可ラサル二個ノ場

合ヲ指示セリ即チ 第一 受寄物ノ價額自己所有物ノ價額ニ比
シテ著シク超過シタルキ 第二 受寄物ハ己ニ受寄者ニ貸與ス
可キ約束アル物ナルキ
最初ノ場合ニ於テハ其受寄物ノ價額著シク受寄者ノ所有物ノ價
額ヲ超過シタルキハ其受寄物自己ノ所屬物タルカ如ク之ヲ監守
保存セサル可ラストノ規則ニ從ヒ先ツ受寄物ヲ救ハサル可ラス
若シ受寄物自己ノ所屬ナリトセンカ必ラス價額ノ少ナルヲ後ニ
シテ先ツ價額ノ大ナル物ヲ救フ可ケレハナリ然レモ此ノ如キ場
合ニ於テハ受寄者寄託者ニ對シテ勞務ヲ爲サントシ爲メニ其所
有物ノ滅失ヲ招キタルカ故ニ寄託者ニ對シテ之レカ賠償ヲ求ム
ルヲ得可キナリ
若シ受寄物ト受寄者ノ所有物トノ間ニ存スル比例價額ヲ査定セ

サルヲ得サルモノトセンカ双方ノ者各其所有物ニ付テ有スル愛
着ノ價額ヲ注視セサル可ラサルハ勿論ナリ○蓋シ日本ニ於テハ
他ノ動産ニ比シテ親戚ノ畫像ノ貴重ニシテ愛着ノ價額ヲ有スル
ノ例ヲ示サス(何トナレハ日本ニ於テ親戚ノ畫像ヲ存シ置クノ慣
習ハ未ダ治ク行ハレサル所ナルヲ以テナリ)然レモ 天皇陛下ヨ
リ下賜セラレタル物品若クハ著名ナル人ノ眞筆ナリト假想セン
ニ此場合ニ於テハ愛着ノ價額ノ其物品通常ノ賣買價額ヲ超過ス
ルヤ固ヨリ言ヲ待タズ是レ其物品ノ受寄物ナルト受寄者ノ所有
物ナルトヲ問ハス大ヒニ注意ヲ要スル所ニシテ即チ法律カ受寄
者其受寄物ニ付テノ此原由ヲ知リタリト假定シ以テ其價額ノ超
過ノ著シキヲ要メタル所以ナリ
次ノ場合ニ於テ若シ受寄物己ニ受寄者ニ於テ借用スルノ約定ア

ルモノナルキハ受寄者之レヲ借受ケタル如ク嚴密ノ注意ヲ加ヘ
サル可ラサルモノニシテ此寄託ニ關シテハ第八百九十三條ノ嚴
則チ適用スルチ得可キナリ而シテ此場合ニ於テハ受寄物ヲ救ハ
ンカ爲メ受寄者ノ犠牲ト爲セタル其所有物價額ノ償還ヲ要ムル
ノ權利チモ有セサル可シ

**第九百七條 受寄物ノ返還ヲ遲滞シタル受寄者ハ普通法ニ依リ意
外又ハ抗拒ス可カラサル力ニ因ル滅失ノ責ニ任スヘキモノトス**

註解

第九百七條 縱令ヒ法律ハ受寄者ニ對シ其過失ニ付テ緩假スル所
アル可キモノナリト雖モ之レヲシテ附遲滞後其受寄物ニ生シタ
ル結果ヲ免レシムルチ得ス故ニ受寄者其受寄物ヲ返還ス可キノ
遲滞ニ置カレタルニ於テハ其附遲滞後ニ係ルモノハ意外ノ滅失

若クハ抗拒ス可ラサル力ヨリ生シタル滅失ト雖モ其責ニ任セサ
ル可ラス○且ツ法律ハ此點ニ付テハ普通法ノ規則ニ送リタリ是
チ以テ若シ物品ヲ返還シタリト雖モ其滅失原由ハ性質上寄託者
ノ方ニテモ同シク生ス可キモノナルキハ受寄者ハ其責チ免ル可
シ(第三百五十五條第二項、第五百六十二條及第五百六十三條參觀)
**第九百八條 寄託者寄託物ノ品質ヲ秘シタルキハ受寄者之ヲ知ル
フヲ探求ス可カラス又如何ナル場合ニ於テモ之ヲ第三ノ人ニ知
ラシム可カラス但シ之ニ背キテ寄託者ニ損害ヲ致シタルキハ受
寄者其賠償ノ責ニ任ス可シ**

註解

第九百八條 本條ノ條例第一部ハ佛國法典第千九百三十一條ヨリ
借り來レルモノニシテ吾人之レニ加フルニ寄託物ノ性質ヲ第三

ノ人ニ知ラシムルコトノ禁止ヲ以テセリ且法文ニ如何ナル場合ニ於テモナル文字ヲ掲ケタリ是レ即チ寄託者受寄者ニ其寄託物ノ性質ヲ知ラシメタルコトアリト雖モ受寄者ハ必ラス第三ノ人ニ對シテ秘密ヲ守ラサルヘカラスト云フニ在リ○然レトモ法律ハ受寄者ニ向ツテ其受寄者タル旨ヲ第三ノ人ニ知ラシムルヲ禁シタルコト非ス蓋シ此ノ如キ陳述ヲ爲スニ必要ナル場合ノ發生スルコトアルヘケレハナリ例ヘハ租税ノ附着スヘキ物件ニ關スルカ又ハ受寄者ノ權利者ニ於テ受寄物カ受寄者ニ屬スルモノトシテ之レヲ差押ヘントシタルキノ如シ

本條ニ於テ受寄者ノ爲メニ設ケタル二箇ノ禁止ノ制裁ハ右秘密ニ付キ寄託者ノ蒙ムリタル損害ノ賠償(但シ此中ニ寄託者ノ欠効シタル利潤ヲ含蓄ス)ニ過キス而シテ何レノ場合ニ於テモ寄託者

ハ損害ノ證明ヲ爲ス可シ然ルニ此證明ハ常ニ容易ナルモノニ非ス

第九百九條 受寄者ハ其受寄物ヲ使用シ且ツ之ヨリ生スル果實ヲ消費スルヲ得ス但シ右ニ付寄託者ノ明瞭若クハ暗黙ノ認許アル

キハ格別ナリトス

此認許ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ附與スルニ充分ノモノトセス

註解

第九百九條 受寄者寄託者ニ勤勞ヲ爲スモ寄託者ヨリ受寄者ニ勤勞ヲ爲サ、ルコトアルハ是レ既ニ吾人ノ論述セシ所ナリ而シテ受寄者寄託物ヲ使用シ之レヨリ生スル果實ヲ消費シ得ルモノトセハ是レ或ハ寄託者ニ獲得セシムヘキ利潤ヨリモ更ラニ多キ利潤ヲ得タルモノナラン○然レトモ寄託者受寄者ニ對シテ寄託物ヲ

使用収益スルヲ許スヲアルヘシ而シテ此ノ如キ利益ヲ得セシメタルハ是レ其物品カ椅子若クハ馬車ノ如キモノニシテ受寄者ニ困難ヲ加フルニ因リ其補償ト看做シタルニ因ルカ若クハ又其物品保存ニ關スル自己ノ利益ヲ計リタルニ出テシモノナリ而シテ其自己ノ利益ヲ計リタルトハ例ヘハ馬ノ如キ寄託物ヲ云フ蓋シ馬ニ運動セシムルヲ要スルモノアリ又牽挽ノ馬ノ如キハ終始之レニ物ヲ曳カシムルヲ要スルモノニシテ若シ此ノ如キ手段ヲ用非サルキハ遂ニ疾病ニ罹リ若クハ其生命又ハ氣力ヲ失フニ至ルヘケレハナリ

又牝牛牝野羊ニ關シテハ受寄者ハ其乳汁ヲ消費シ肥料ヲ使用スルノ許ヲ受ケ又牝鶏ニ關シテハ鶏卵ヲ消費スルノ許ヲ得タルナル可シ又受寄者ニ於テ此等ノ獸類ノ食糧ヲ自辨セシキハ殊更

之レヨリ生スル利益ヲ獲得スルノ許ヲ受クルコトアル可キナリ右ノ允許ハ敢テ明瞭ナルヲ要セス唯默認ニシテ寄託物ノ景狀及ヒ其性質ヨリ顯出スルヲ以テ足レリトス

法文ニハ此ノ如キ寄託物使用ノ允許カ寄託契約ヲ以テ使用貸借ニ變更スルモノニ非スト陳述スルノ注意ヲ爲セリ是ヲ以テ寄託者ハ常ニ己レノ適宜ニ寄託物ヲ引取ルコトヲ得可シト雖モ受寄者ノ責任ハ使用貸借契約ニ於ケル借主ノ責任ヨリモ尠ナキモノトス即チ吾人ハ第九百五條第二項ノ場合ニモ尙ホ第八百九十三條ノ場合ニモアラサルナリ

第九百十條 受寄者ハ其受寄物ヨリ收受シタル果實及ヒ產物若シクハ之ヲ金額ニ變交シ置ク可キモノナリシ中ハ其價額ヲ并セテ原物ノ儘之ヲ返還ス可シ

若シ受寄者其受寄物ニ關シテ或ル補償金ヲ受收シ若クハ或ル權
利ヲ獲得シタル中ハ之レヲ寄託者ニ移轉ス可キモノトス
若シ受寄者故意ヲ以テ受寄物ヲ消費シ、讓渡シ若クハ挪移シタ
ル中ハ其受寄物返還ノ爲メ受寄者ヲ遲滯ニ附スルヲ要セスシ
テ之ニ總テ損害賠償ノ責ヲ負ハシムルモノトス但シ此賠償義務
ハ受寄物ニ關スル罪ニ對スル公訴權ヲ妨ケス

註解

第九百十條 本條及ヒ次條ニ於テハ受寄者ノ主タル義務トシテ看
做ス可キ返還ノ義務ニ關スルモノナリ
受寄者ハ寄託物ヲ其儘ニテ返還シ詳言スレハ其受取リシ所ノ物
ヲ返還スルヲ要ス○彼ノ變則ト稱スル寄託即チ金錢ヲ見ハニシ
テ詳言スレハ封ヲ用ヒス尙ホ蠟ニモ入レヌシテ之レヲ交附スルヲ

目的トシ且ツ其返還ハ同一ノ貨幣ヲ以テセスシテ同性質ノ貨幣
ヲ以テスル寄託ノ場合ニ於テハ例外アリト信スル者アル可シ然
レモ此場合ヲ以テ例外トス可キニ非ス即チ此場合ハ充分規則中
ニ入ルモノナリ蓋シ貨幣ノ各種ヲ定メサリシキコシテ受寄者ヨ
リ返還セシ金額カ同様ノ金貨銀貨又ハ紙幣ナレハ該受寄者ハ充
分ナル同一物ニテ返還セシ者ト看做サル、ナリ
受寄物カ果實及ヒ產物ヲ生スル中ハ則チ受寄者ハ之レヲ返還ス
ルヲ要ス而シテ是レ獸類ノ子タルコトアル而已何トナレハ茲ニハ
不動産ニ關スルニアラス又獸類外ノ動産ハ果實又ハ產物ヲ生セ
サレハナリ然レモ蜜柑ノ木、石榴ノ木及ヒ其他鉢植ノ矮樹モ亦此
中ニ算入セシムルコト得ヘシ
受寄者ニ於テ受寄物ノ収益ヲ許サレタル中ハ右果實及ヒ產物ノ

返還ヲ要セサルヲ論チ俟タサルナリ
 本條第二項ノ適用ハ最モ稀ナル可シ然レハ其寄託物カ第三ノ人
 ニ因テ損害ヲ受ケ又ハ臨時公ケノ使用ノ爲メニ請求セラレシ
 アル可クシテ是等ノ物件トハ鎖火用ノ唧筒、馬、馬車ノ如シ而シテ
 之レカ爲メ受寄者ハ賠償ヲ受取リシコアル可シ此場合ニ於テ受
 寄者ハ他人ノ財産ニ付キ不正當ニ利得スルニアラサレハ此賠償
 ヲ保有セサル可キヲ明カナリ
 末項ハ一層重大ナル事實ヲ假定ス即チ受寄者、寄託物ヲ消費シ讓
 渡シ又ハ挪移シタリ而シテ法律ハ其故意ヲ以テ之レヲ爲シタル
 ヲチ假定ス何ントナレハ稀レニハ其寄託アリタルヲ遺忘シ寄
 託物ト己レニ屬スル他ノ物件トヲ混淆スルヲナシトセサレハナリ
 ○次條ニ豫定スル此場合ヲ除キ惡意ヲ以テ物件ノ處分ヲ爲スハ

甚タ咎ム可キノ所爲ニシテ受寄者ハ之レカ爲メ一切ノ損害賠償
 ヲ負擔シ受寄物ニ關スル罪ノ爲メ公訴ヲ被ラサル可ラサルナリ
 (日本刑法第三百九十五條)

又此損害賠償ハ當然且ツ附遲滯ナク擔當ス可キモノナルヲ注
 意ス可シ是レ一般ノ原則ヲ適用スルニ過キサルヲ以テ本條特ニ
 之レヲ述フルニ及ハサル可シ(第四百四條第二項ヲ看ル可シ)ト雖
 モ時ニ法律ニ原則ノ適用ヲ示スハ敢テ不可ナリトセス却テ一層
 之レヲ知ラシムルノ機會ナリトス○然リト雖モ右ノ場合ニ於テ
 ハ詐欺ノ情狀アルヲ以テ損害賠償ノ中豫定セサル損害ニ至ルマ
 タ之レヲ包含スル旨ヲ重言スルニ至ラサルナリ(第四百五條第二
 項ヲ看ル可シ)

第九百十一條 若シ受寄者ノ相續人受寄物タルヲ知ラスシテ之

ヲ消費シ若クハ讓渡シタルハ之ニ付キ得タル利益ノ限度迄賠償ノ義務ヲ負擔ス可シ

受寄者自カラ遺忘又ハ錯誤ニ依リ自己ノ所有物ナリト思惟シテ受寄物ヲ處分シタルモ亦同一ノ規則ヲ適用ス可シ

注解

第九百一十一條 抑モ寄託アリタルヲ知ラス善意ヲ以テ之ヲ處分スルハ受寄者ヨリモ其相續人タルヲ最モ多カルヘキナリ○而ノ相續人寄託物例ヘハ食用品薪材若クハ建築用ノ木材ヲ消費スルニ受寄者原ト勞務ヲ爲シ又相續人ニ寄託ヲ知ラサルヲ責ムル能ハサルカ故ニ必スヤ消費物ノ賣價ヲ以テ賠償ヲ定メス相續人其消費ニ付キ就中其費用ヲ省ヒテ得タル處ノ利得ニ依リ之ヲ定ムヘキナリ然レモ其實大ナル差異アラサルヘシ唯タ或ハ其物件

ノ第一ノ必要物ヲラサルヲアルヘシ此場合ニ於テハ相續人之ヲ所有スト誤信セサレハ或ハ他ノ物件ヲ購求セサリシナラン若シ其物件ヲ讓渡シタルモ第三ノ獲得者善意ニテ且ツ之ヲ占有スルニ於テハ之ヲ取戻スヲ能ハス何ントナレハ次條ニ豫定スルカ如ク受託者自カラ惡意ニテ之ヲ讓渡シタルモ之レヲ取戻スヲ能ハサルヘケレハナリ
有償讓渡ノ場合ニ於テハ相續人其物件ヨリ得タル代價又ハ相當代價ヲ返還スルヲ要ス若シ又物件ヲ贈與シタルモハ此物件ナクハ他ノ物ヲ附與シタルヘキヤ否ヤヲ討究スヘシ他ノ物件ヲ附與スヘカリシ場合ニ於テハ亦タ相續人自己ノ財産ヲ貯存シタルニ因リ利益ヲ得タルモノナリ
右ノ法則タル受託者自カラ善意ヲ以テ物件ヲ處分シタルヨリ生

シタル同一ノ事實ニ適用スヘキモノナリ

第九百十二條 受寄物ノ返還ハ寄託者又ハ其相續人若クハ其法律上又ハ合意上ノ名代人ニ爲ス可キモノトス

第九百十三條 受寄物返還ノ場所ヲ定メナキハ受寄者其寄託ヲ受ケタル後受寄物所在ノ場所ヲ變轉シタリト雖モ其物件現時所在ノ場所ニ於テ其返還ヲ爲ス可シ但シ其場所ノ變轉ニ詐計アラサリシヲ要ス

第九百十四條 寄託者ノ請求次第受寄者其物件ヲ返還スヘキノ義務ハ左ノ場合ニ於テ止息スルモノトス

第一 受寄者其物件ノ自己ニ屬スル旨ヲ證明シ得ルキ

第二 受寄者カ次條ニ從ヒ物件留置權ヲ行フヲ得可キ場合ニ在ルキ

第三 受寄者カ他ヨリ制規ノ程式ニ適シタル物件ノ渡方差止又ハ其物件返還ニ對スル故障ヲ受ケタルキ

第四 受寄者其物件ノ盜賊ナルヲ發覺シ且ツ其所有者ヲ知りタル中但シ此場合ニ於テハ所有者ヘ其受寄物ヲ告知シ其際相當ノ期限ヲ定メ其期限内ニ寄託者ト立會ニテ其物件ヲ要求ス可キ報知狀ヲ添ヘテ其告知ヲ爲ス可シ若シ右ノ期限ヲ經過スルモ所有者來ラサルキハ受寄者其物件ヲ寄託者ニ返還ス可キモノトス

註解

以上ノ三條ハ受寄物ヲ返還ス可キノ義務ニ關スル所ノ事項ヲ規定シ了ルモノナリ即チ首條ニハ何人ニ受寄物ヲ返還ス可キカヲ定メ第二條ニハ同ク其場所ヲ定メ末條ニハ返還ヲ拒絕シ

又ハ延引スルヲ得ル旨ヲ定ム

第九百十二條 佛典ハ受寄物ノ返還ヲ受ク可キ人ノ區別ニ付キ條項ヲ設クルノ多キニ過キタリ左レハ本法ニハ一般ノ原則ヲ適用スルノミ佛典カ受寄物ノ事ニ付キ述ヘタル所ハ自餘ノ返還ノ場合ニ付テモ亦タ等シク詳細ニ述フルヲ得可ク且ツ其利益モ亦タ同シク少カル可シ○蓋シ寄託者其財産ヲ管理スルノ能力ヲ失フキハ其代理人ニノミ寄託物ヲ返還ス可ク又無能力者タリシモ能力者タルニ至リタルキハ其代理人ノ寄託シタル物件ニテモ本人ニ返還セラル可ク又其死去スルキハ其相續人ニ非ラサレハ返還ヲ爲ス可ラス而シテ若シ相續人數名ナルキハ各自ニ其分配高ニ應スル部分ノミヲ返還スルカ又ハ總員一致シテ之レニ返還ス可キカ明カナリ

第九百十三條 受寄者返還ノ場所ヲ特ニ定ムルヲ稀レナルヘシ蓋シ多クハ其物件義務者ノ住所ニ存スヘキ性質ノモノタルヘシ而ノ之ヲ返還スルハ必スヤ該住所ニ於テスヘキナリ○然レモ義務者住所ヲ轉スルヲアルヘク此際ニ於テハ其物件新住所ニ附従スヘシ又或ハ受寄者ノ便宜ノ爲メ其處ヲ移轉スルヲアルヘシ然レモ之カ爲メ其原ト存在シタリシ處ニ之ヲ運轉スルニ及ハサルナリ唯タ其移轉ノ善意ニ出テ詐欺ニ因ラサルヲ要スルノミ勿論法律ニハ明言セサレモ返還ノ費用詳言スレハ引取入費ハ寄託者ノ負擔スヘキモノナリ

第九百十四條 第九百一條ニ寄託ノ定義中寄託者ノ請求次第受託者物件ヲ返還スルノ義務アルヲ述ヘタリ故ニ本條ニハ返還義務ノ時ニ關スル此性格ヲ複記スルニ及ハス

唯タ之ニ四个ノ例外ヲ設ケタリ○此例外タル佛法典ニハ處々散在スルノミ(第千九百三十八條、第千九百四十四條、第千九百四十六條、第千九百四十八條)然レモ之ヲ併記スルヲ至當ト爲ス

第一 寄託物件ノ所有權寄託者ニ屬スルカ如クナリシモ却テ受寄者ニ屬スルコトアルヘシ此場合タル實際稀レナルヘシト雖モ亦タ敢テ之レナシトセサルナリ○或ハ一層多カルヘキハ受寄者寄託者ト契約シテ物件ヲ獲得シタル場合ナルヘシ此場合ニ於テハ獲得ノ時ヨリ寄託消滅スヘク受寄者ハ此時ニ於テ物件ヲ返還シ而ノ直チニ獲得者トシテ之ヲ受取リタルモノト看做サルヘキナリ

第二 受寄者ハ物件ノ保存及ヒ其之ニ及ホシタル損害賠償ノ爲メ費シタル所ノ償還ノ抵當トシテ物件留置ノ權ヲ有スヘキヤ當

然ナリ○此權利ハ次條ニ至リ之ヲ認定スヘシ

第三 寄託者ノ債主辨濟ヲ受ケサルコトアルヲ恐レ且ツ其義務者ノ物件カ第三ノ人ニ寄託セラレタルヲ知ルニ方リ義務者之ヲ曲取消費セシコト慮リテ其返還ヲ妨止セント欲スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ債主ハ受寄者ニ而已渡方差止又ハ故障ヲ爲スノ權ヲ有ス○又第三ノ人ニ於テ寄託物ノ所有者ナリト自稱シ又ハ其者ニ付キ動産質權又ハ其他ノ擔保權ヲ爲スト稱シタルモ寄託物返還ノ故障ヲ爲スヘキナリ○此等種々ノ場合ニ於テハ受寄者第三ノ人ノ唱フル所果シテ至當ナルヤ否ヤヲ査定スルノ權ナキカ故ニ受寄物返還ヲ見合セサルヘカラス若シ之ヲ返還スルモハ其責ニ任スヘキナリ

唯タ其返還ヲ延期スヘキカ爲メノ要件タルモノハ差止又ハ故障

ノ制規ノ程式ニ依循スルコト是レナリ

第四 受寄者物件ノ盜賊タルコトヲ發見シ而ノ其眞ノ所有者ヲ知ルルハ實ニ返還ヲ拒絕スルノ權アルノミナラス亦タ其義務アルナリ此際ニ於テハ所有者ニ充分ナル定期中ニ之ヲ要求スヘキコトヲ以テセサルヘカラス然レモ亦タ寄託者ヲ召喚シ返還ヲ監査シ抗辨セシメスシテ之ヲ返還スルハ不注意ナリ○本條ニハ特ニ此注意ヲ述ヘタルモ佛法典ニハ之ヲ脱シタリ(第千九百三十八條)然ルニ若シ所有者定期ヲ過クルモ要求ヲ爲サ、ルルハ寄託者ニ要求ヲ爲サ、ルヘカラス

第九百十五條 寄託者ハ受寄者ノ其受寄物ノ保存ニ關シテ爲シタル必要費及ヒ其受寄物ニ付テ受ケタル損害ヲ之ニ賠償ス可シ
右賠償皆濟ニ至ル迄受寄者ハ其受寄物上ニ留置ノ權ヲ行フヲ得

可シ

註解

第九百十五條 本條ニ豫定シタル寄託者ノ二個ノ義務ハ寄託契約ヨリ直接ニ生スルモノニアラスシテ契約ハ只之ヲ生スルノ機會タルニ過キス而シテ此理論タル使用貸借契約ニ於ケルト同一ニ歸スル所ニシテ即チ受寄者受寄物ヲ保存シタルカ爲メ寄託者ノ受ケタル利得ノ賠償又ハ寄託者瑕瑾ヲ知ラサル可ラサル有害物ヲ寄託シ其過失ニ依リテ受寄者ニ受ケシメタル損害ノ賠償ニ起因スルモノナリ○而シテ其瑕瑾寄託己後ニ生セシモノナルルハ寄託者其責任ヲ免ル可シトノコトハ本條ニ包含スル所ナリ例ヘハ寄託ノ馬匹疾病ト爲リ其疾病受寄者ノ所有馬匹ニ傳染セシカ如キ若クハ寄託ノ飼犬狂病ヲ發シタルカ如キ則チ是ナリ故ニ寄託

者ニ賠償ノ責メヲ負ハシムルコトハ常ニ寄託者ノ方ニ不注意アリ
シトシテ要スルナリ○然レモ是等ノ賠償ヲ受クル受寄者ノ權利ヲ
以テ彼使用借主ニ關スルカ如ク寄託者ノ瑕瑾ヲ知ラサルノ事實
ニ從屬セシメス即チ常ニ使用借主ハ人ヨリ勞務ヲ受ケタルモノ
ナリト雖モ受寄者ハ人ノ爲メ之レヲ爲シタルモノナルトモ忘ル
可ラス

蓋シ是等ノ賠償償還ノ擔保トシテ本條ノ受寄者ニ許シタル留
置ノ權ヲ更テニ爰ニ詳論スルニ及ハス

只注意ヲ要ス可キハ法律ハ爰ニ寄託者ノ前叙二個ノ原由外ノ名
義ヲ以テ受寄者ニ對シテ負擔ス可キモノ、相殺ノ爲メ受寄物留
置權ノ禁制ヲ記載セサルト即チ是ニシテ留置權ニ關スル禁例ハ
己ニ第五百四十八條第二項ニ記載シ且ツ證明シタル所ナレハナ

リ(六百九十九葉乃至七百葉註解)○且ツ爰ニ序ヲ以テ注意シ置ク
可キコトアリ即チ受寄者ノ主張ス可キ相殺ハ(變則)ト稱スル寄託若
クハ對價物ニテ返還シ得可キ代用物ノ寄託ニ關スルモ非ラサ
レハ理解スルヲ得サル可シ何トナレハ若シ確定物ニ關スルモノ
トセン乎其二個ノ負債同種ナラサルノミニ依リテ相殺ヲ爲スコ
能ハサルハ勿論ナレハナリ

第貳節 不得止ノ寄託及ヒ旅舎ニ於テノ寄託

第九百十六條 火災、水災、破船、地震、一揆等ノ如キ意外ニ出テ抗拒
ス可ラサル災變ニ依リ余義ナク爲シタル寄託ヲ名ケテ(不得止
ノ寄託ト云フ

不得止ノ寄託ハ一切ノ方法ニ依リテ証スルヲ得可ク或ハ事情ヨ
リ生シタル事實上ノ推測ニ依リテモ之ヲ証スルヲ得可シ

其他不得止ノ寄託ハ隨意ノ寄託ニ關スル諸規則ニ從フ可シ但シ寄託物ニ關スル犯罪ノ場合ニ付キ刑法ニ記載シタル刑ノ加重ハ格別ナリトス

註解

第九百十六條 不得止ノ寄託ト隨意ノ寄託トノ間ニ存スル區別ハ制法上ノ慣習ヨリ來レルモノナリト雖也今日ニ於テハ不得止ノ寄託ノ受寄者ノ從フ可キモノニシテ隨意ノ寄託ノ受寄者ノ從ハサル民事拘留ヲ廢止シタルノ故ヲ以テ此區別ニ付テ往時ノ如キ重要アルコトナシ(佛法典第二千六十條第一項)○佛法典ニ於テハ尙ホ此二個寄託ノ間ニ存スル區別ヲ保存スルコトニ付キ二個寄託ノ間ニ充分ナル差別アリテ存スルモノトス即チ此差別タル寄託ノ証據ニ關スルモノニシテ不得止ノ寄託ハ百五十七「フランク」已上ノ

モノモ人證ヲ以テ證スルヲ得可シト雖也隨意ノ寄託ニ至リテハ其百五十七「フランク」已下ノモノニ非ラサレハ人證ヲ以テ證スルヲ得サルコト是ナリ○日本ニ於テハ未ダ證據法ヲ規定セサレハ人證ニ關スル制限ヲ設ケス即チ其制限ヲ設クルハ第五編ニ於テス可シ○蓋シ日本ニ於テモ恐ラシハ人證ニ關シテ若干ノ制限ヲ設クルニ至ル可シ何トナレハ今日ニ在リテハ往時ニ比シテ法律上書面ノ使用ヲ要ムルコト多キカ爲メ之レカ使用ハ洽ク一般社會ニ廣擴シタレハ人證ノ制限ヲ設クルモ別ニ差支ナカル可ク又之カ制限ヲ設クレハ訴訟ヲ豫防スルニ足ル可ケレハナリ然ルニ右ニ關スル法律上將來定ム可キ規則ノ如何ニ拘ラス不得止ノ寄託ノ爲メニ簡便ノ證據方法ヲ認許スルハ最モ必要ノコトタル可ク而シテ本條ニ於テハ此二個寄託間ニ存スル區別ノ效用ヲ示サンカ爲メ

今ヨリ不得止ノ寄託ヲ證スルコハ一切ノ方法ヲ以テスルヲ得可ク或ハ事實上ノ推測ヲ以テモ之レヲ證スルヲ得可キヲ説キタリ

止ムヲ得サル寄託ハ受寄者ノ責任ヲ増加セス又之レヲ減少セス即チ事件ヨリ生シタル止ムヲ得サル寄託ハ受寄者ノ爲メニ發生シタルモノニ非ス故ニ受寄者ニ負擔セシムヘキ充分輕少ナル尋常ノ責任ヲ更ニ減少スヘカラス又其責任ヲ増加スルヲ得ス蓋シ是レ此ノ如キ條件附ノ寄託ヲ受諾スルノ妨ケトナルノミナラズ斯ル寄託ヲ爲スノ要アル者ノ損害トナレハナリ

止ムヲ得サル寄託ニ關スル受寄者ノ責任ニ附着シ得ヘキ唯一ノ差異ハ其寄託物曲轉ニ因レル背信罪ノ刑ヲ加重スルヲナリ蓋シ寄託者ハ其自由ニ受寄者ヲ撰擇シ得カリシニ因リ斯ル受寄者ノ

不信切ハ隨意ノ寄託ニ關スル受寄者ノ不信切トハ一層大ナル道德上ノ害悪及ヒ社會ノ損害ヲ提出ス即チ其道德上ノ害悪一層重大ナルハ是レ蓋シ止ムヲ得サル寄託ニ關スル受寄者ハ其寄託者ノ地位ノ困難ナルチ一層奇貨トシテ信用ニ背キタルモノナレハナリ又此場合ノ社會ノ損害モ一層大ナリ何トナレハ人相互ノ間ニ存スル一般ノ信用減少スルキハ場所ノ災害ヨリ生スル滅失ハ有益ノ時間ニ寄託ヲ爲サ、ルカ爲メニ増加チ來スモノナレハナリ

附言 我刑法草案ハ止ムヲ得サル寄託ノ場合ニ於ケル背信罪ノ刑ニハ一等ヲ加ヘタリ○頒布法典ニハ此加重ヲ刪除セリト雖モ草案ノ通りニ回復ヲラシテ希望スル所ナリ

茲ニ吾人ノ論究スル寄託ノ止ムヲ得サル性質ハ寄託物カ受寄者

ニ損害ヲ加フヘキ場合ニ於テハ之レヲ斟酌シタルコトアルヘシ而シテ寄託物ヨリ生スヘキ危険ヲ指示セサルヘキ寄託者ニ對シテハ稍ヤ寛宥ナルヘシ蓋シ其寄託者現ニ蒙ムル所ノ妨害ト其切迫シタルコトヲ斟酌スヘケレハナリ

第九百十七條 旅館主、旅店主、其他宿泊店主ハ爰ニ宿泊シタル旅人ノ携帯セシ物品ニ付テハ不得止寄託ノ受寄者ト見做ス可キモノトス

舟車運送營業者其他總テ水陸ノ通運營業者ノ其運送ノ委任ヲ受ケタル荷物ニ付テモ亦同シ然レモ本條ニ豫定シタル受寄者ハ有償名義ニ於ケル契約者ト同一ノ責任ニ從フモノトス

註解

第九百十七條 夫レ旅舎又ハ旅店ニ滞在スル所ノ旅人ハ毫モ其宿泊ヲ供スル者ヲ撰擇スルヲ得サルノミナラス之レヲ撰擇シ能ハサルコト或ハ之レ無キヲ保セス何トナレハ旅人ノ滞在スル場所ハ獨リ旅舎ナレハナリ○故ニ旅人ノ携帯シ來ル証券及ヒ或ル物品ヲ旅舎内ニ寄託スルヲ以テ止ムヲ得サル寄託トシテ見做スモ適度ヲ越ヘタルコト非ス陸上又ハ水上ノ便利ニ因リ物品運送ノ爲メニ該物品ノ交附ヲ受ケテ之レヲ其營業ト爲シタル者ハ自己ニ交附シタル人ヲ該運送品ト同時ニ送致スルト否トニ別ナク法律ハ總テ此營業者ヲ以テ止ムヲ得サル寄託ニ關スル受寄者ト同視シタリ旅舎、船舶又ハ運送車内ニ物品ノ所有者ノ現存スルコトハ寄託アリトスルニ妨害トナラス何トナレハ該物品ハ必ラス其所有者ノ眼

ニ觸レ且其監守スヘキモノト云フコアラサレハナリ○又右所有者ノ存在スル場所ヨリモ隔離シタル場所ニ右ノ物品ノ設置セラレタルヲ往々ニシテ之レアリ而シテ旅人ノ旅荷及ヒ荷箱類カ其宿泊スル旅舎又ハ船中ノ室内ニ存在スルキト雖モ其旅人ハ多少ノ時間外出スルコトアル可クシテ其外出中ニ物品ノ全部又ハ一部ノ消滅スルコトアル可シ

抑モ法律ニ於テ旅人ノ携帯スル物件又ハ運送營業者ニ委テタル物件ノ交附ヲ以テ止ムヲ得サル寄託ト同視シタルモ如何ナル場合ニ於テモ總テ之ヲ同視シタリト云フニ非ス何トナレハ是レ旅舎主及ヒ運送人ニ甚ク制限シタル責任ヲ定メタルニ過キス然ルニ其責任ハ却テ尋常ノ受寄者ニ於ケルヨリモ一層嚴格ナルヲ見ルヘケレハナリ蓋シ之レヲ以テ止ムヲ得サル寄託ト同視シタル

ハ是レ即チ寄託ノ証據ノ最モ容易ナランカ爲メナリ何トナレハ寄託ノ急速ヲ要スルコト及ヒ旅人ノ雜沓トハ往々書面ヲ記載シ能ハサルコトアレハナリ○旅人又ハ通行人及ヒ其荷物ヲ簿冊ニ登記シタル上ニテ其運搬ヲ受諾スル所ノ廣大ナル運搬營業ハ吾人ノレチ例外ノ場合ト爲スベシ

此等ノ場合ニ於テモ尙ホ其寄託ハ止ムヲ得サルモノナリト申述スルコトアルヘシ何トナレハ殆ント其運搬營業ヲ撰擇スルコト能ハサルヘケレハナリ(鎖道ノ如キ即チ此例ナリ)而シテ其寄託ヲ止ムヲ得サルモノト名稱スルニ利益アリ抑モ運搬スヘキ物ヲ簿冊ニ記載スルハ証據ノ爲メニスルニアラスシテ該營業者ノ從者又ハ營業者ニ使用セラル、者曲轉ヲ爲シタルトノ責任ノ爲メニシタルモノナリ而シテ前條ノ末項ハ之レニ適用スヘキモノトス

然レトモ此止ムヲ得サル寄託ハ受寄者ノ爲スヘキ注意ノ度ニ關シテ前述ノ寄託トハ異ナルモノナリ即チ旅舎、船舶及ヒ車内ノ寄託ハ勞力ノ賃借ノ從タルモノニシテ受託者ハ賃金ヲ受ケタルモノナレハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其受寄物ヲ取扱ハスンハアルヘカラス故ニ尋常ノ受託者ノ如ク平生自己ニ關スル事件ニ加フル所ノ注意ヲ爲スヲ以テ足レリトセス○是レ蓋シ法律カ有價名義ニ於ケル結約者ノ責任ニ讓リテ以テ此事ヲ説明シタル所以ナリ

第二款 監守

第九百十八條 監守トハ二名若クハ數名ノ反對ノ主張即チ爭訟ニ係ル物件ヲ第三ノ人ノ手裏ニ附シタル寄託ヲ云フ
監守ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルヲ得ヘシ

監守ニ合意上ノモノアリ又裁判上ノモノアリ

註解

第九百十八條 夫レ爭訟ノ目的タル物件即チ二名若クハ數名ノ反對シタル請求ノ目的タル物件ハ之ヲ双方中ノ一方ノ手裏ニ附スルヲ以テ時トシテハ危險ナルヲアリ何トナレハ其物件カ懈怠又ハ惡意ニ因リ或ハ消滅シ或ハ毀損スルヲアリテ保有者ノ責任ハ其無資力ノ果効ニ因リ遂ニ無効ニ歸スルヲアレハナリ○故ニ此物件ヲ第三ノ人ノ手裏ニ寄託スルヲ以テ當然ノトス
此寄託ヲ名ケテセクストル〔監守〕ト云フ○然レモ又受寄者ニセクストル〔監守〕ノ名ヲ付スルヲアリ
異義ヲ有スル此二個同語ノ使用ニ於テ錯雜ヲ避ケンカ爲メ爰ニテ受寄者ニ與フルニ〔監守者〕ノ名稱ヲ以テス可シ

最初ノ條ニ於テハ第三ノ人ノ手裏ニ監守ヲ爲シタル場合ヲ假定
セリ是レ此場合タル最モ多ク生ス可キ場合ナレハナリ然レモ次
條ニ於テハ契約者中一人ノ手裏ニモ監守ヲ爲シ得キヲ見ル
可シ

彼監守ノ普通寄託ト異ナル所ハ普通寄託ヲ爲スハ動産ニ限ルモ
ノナリト雖モ監守ハ不動産ニ付テモ爲スヲ得可キニ在リ是レ即
チ監守ノ代理委任ト相ヒ似タル所ナリ然レモ監守ニ代理委任ト
似タル所アルニ拘ラス之カ爲メニ實行契約ト見做サシムル寄託
ノ性質即チ實物ノ交附ニ依リテ組成セラル、寄託ノ性質ヲ保持
セサル可ラサルナリ
且ツ監守ハ其合意上ヨリ成リ即チ双方ノ者自ラ爲セシモノナル
キニ非ラサレハ眞ノ所謂契約ニアラス其裁判所ノ命令ヲ以テ爲

サレタルモノニ付テハ監守者ノ監守ヲ承認セシキト雖モ絶テ合
意アルコトナシ何トナレハ裁判所ノ監守者ト契約セサルハ勿論又
双方ノ者ハ固ヨリ契約セシコトアラサレハナリ然レモ監守ノ効力
ニ至リテハ其契約者双方ノ承諾ニ依リテ成リタル場合ト毫モ異
ナル所ナシ

第九百十九條 合意上ノ監守ハ寄託ニ付テモ亦監守人タルヘキ者

ノ撰擇ニ付テモ總テノ關係人ノ承諾アルヲ要ス
裁判上ノ監守人ハ双方ニ於テ其撰擇ニ付キ一致セサルキニアラ
サレハ裁判所ヨリ其職權ヲ以テ之レヲ撰擇セサルヘシ
裁判所ハ訴訟關係人中ノ一名ヲ以テ監守人ニ命スルコトヲ得可シ

註解

第九百十九條 合意上ノ監守ニ於テ監守ノ承諾ハ固ヨリ關係人一

同ヨリ出テサル可ラス而シテ常ニ此場合ニ於テ少クモ争訟ニ於ケル二人ノ者アル可シ是レ佛法典第千九百五十六條ニ於テ不注意ニモ寄託ハ一人又ハ數人ニ依リテ爲サル可シト説キタル所ナリ○而シテ關係人ノ承諾ニ關シテハ二個ノ目的アリ一ハ寄託ノ所爲自ラニ關スルモノ他ハ寄託物ヲ委任ス可キ人ノ撰任ニ關スルモノ即チ是ナリ

寄託ヲ委任セラレタル者ノ之ヲ承諾ス可キハ固ヨリ言ヲ待タス○而シテ縱令ヒ裁判所ヨリ監守ヲ命シタルキト雖ヒ双方ノ者ノ監守人撰任ニ關シテ其意見ヲ伸フルヲ認許セサル可ラサル所ニシテ裁判所自ラ其撰任ヲ爲スハ双方ノ者ノ一致セサルキニ限ル可シ○蓋シ双方ノ者監守者ノ撰任ニ付テ一致シタルキハ合意上ノ監守ヲ設定シ得ルヲ疑ヒナシ然レモ監守者自ラ裁判所ヨリ委

任ヲ受ケンヲ欲シ若クハ双方ノ者ト雖モ裁判所ノ命ヲ以テ撰任シタル監守者ハ正實ニ其義務ヲ盡ス可シト思惟シ之レカ撰任ヲ裁判所ニ委ヌルヲアル可シ○且ツ刑法ニ於テ裁判所ヨリ委任シタル監守物ノ曲轉ニ付テ其罪ヲ加重スルハ最モ宜シキヲ得タルヲナル可シ(改正刑法草案第四百三十八條參觀)

第九百二十條 合意上ト裁判上トヲ問ハス總テ監守人ハ給金ヲ受クルヲ得ヘシ故ニ監守人ハ其監守スル物件ニ善良ナル管理者ノ尋常ノ注意ヲ加フルノ責任アリトス

註解

第九百二十條 普通ノ寄託ハ其本性上無償ノモノニシテ縱令ヒ受寄者其煩勞注意ノ報酬金ヲ受收ス可キト雖トモ其報酬金ニシテ純然タル利益ヲ組成セサル内ハ只之ヲ受收シタルノミノ事實

ノヨコ依リテ契約ノ性質ヲ變シテ勞務ノ賃貸ト爲ルコトナシ
 然レモ愛コテ監守人ハ必ラスシモ關係人ノ友人タルス就中關係
 人ノ數多ナル時其關係人一同ノ友人タルコト絶テアル可ラサルカ
 故コ之カ爲メ厚意ノ勞務ヲ爲セシモノト見做スヲ得ス是ヲ以テ
 監守人ノ報酬金ヲ受收スルハ實ニ當然ニシテ其之ヲ受收シタル
 カ爲メ契約ハ勞務ノ賃貸ト爲ルコトナシト雖モ少クモ其報酬金ハ
 監守人ノ爲メニ利益ヲ組成スルモノト認許スルヲ得可シ是ニ由
 リテ之レヲ見レハ則チ法律上此場合ニ於ケル監守人ニ一層ノ注
 意ヲ要メ且ツ己ニ旅店主舟車運送營業者ノ爲メ定メシカ如ク之
 ニ負ハシムルコト有價名義ニ於ケル契約者ト同一ノ責任ヲ以テセ
 シハ實ニ當然ノコト云フ可キナリ(第九百十七條)

第九百二十一條 裁判上ノ監守人ハ第九百二十六條ニ循ヒ(其監守

物ノ賃貸ヲ爲スコトヲ得可シ然レモ合意上ノ監守人ハ關係人等
 ノ特別代理ヲ有スルニアラサレハ之レヲ爲スヲ得ス
 裁判上ノ監守人及ヒ合意上ノ監守人ハ其(監守物ノ)占有ヲ保存
 シ又ハ回復スルカ爲メ占有訴權ヲ執行スルコトヲ得ヘシ
 監守人ノ占有ハ爭訟ニ付キ結局勝訴スル一方ノ者ノ利益トナル
 ヘシ

註解

第九百二十一條 通常ノ受寄者ハ受寄物ノ賃貸ヲ爲スコトヲ得ル資
 格ヲ有セサルナリ蓋シ通常ノ受寄者ハ概チ頗フル短少ナル時間
 ノ爲メニミ寄託ヲ受クルモノナレハ賃貸ヲ爲シテ寄託者ニ義
 務ヲ負ハシムルハ其權限ヲ超過スルモノナリ
 然ルニ監守ハ爭訟ノ終審裁判ニ至ルヲ以テ其期限トスルカ故ニ

大抵頗フル長キ時間ノ爲メニスルモノナリ○故ニ訴訟關係人ノ利益ノ爲メニ其物件ヲ貸貸シ以テ其不動産タルキハ殊ニ收得ヲ生セシムルヲ得ル所以ヲ會得ス(參看第二百二十六條乃至第二百二十八條)然レモ本法ハ裁判上ノ監守人ニ非ラサレハ特殊ノ權限ナクシテ物件ヲ貸貸スルヲ許サス合意上ノ監守ハ斯ク將來ニ向ヒ物件上ニ義務ヲ作爲スルカ爲メニハ關係人ヨリ權力ヲ受ケサル可カラス

然レモ受寄者及ヒ監守人共ニ等シク占有保安ノ訴權及ヒ恢復訴權ヲ行フヲ得ヘキモノナリ第一ノ訴權ハ之ニ委託シタル占有ヲ保存スルカ爲メニシテ第二ノ訴權ハ之ヲ恢復スルカ爲メナリ今此占有ノ性質ニ付キ少シク説カサル可カラサルモノアリ抑モ監守人ハ一切ノ受寄者ノ如ク自己ノ爲メニハ假有ノ占有ヲ

有スルニ過キサルヤ疑ナシ其占有ハ自己ノ爲メニスルニ非ラスシテ他人ノ爲メニスルモノナリ而シテ監守人ノ命セラレサル時ニ方リテハ必スヤ對手人ノ一方ニ於テ占有ヲ爲スモノナリ其占有タル監守人ヲ命シタルカ爲メ裁判上之ヲ褫奪スルモノニ非ラス其名義ヲ以テ監守人之ヲ行フモノトス左レハ監守人ノ當ニ此占有ヲ保存シ恢復スル權利ヲ有スルノミナラス亦タ其義務ヲ有スヘキナリ

然レモ時トシテハ爭訟ノ起リタル時ニ方リ何レノ對手人ニ於テ占有ヲ爲シタリヤノ點ニ付キ疑議ノ生スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ監守人ノ占有モ亦タ不確定ナル所アリテ第三項ニ記スルカ如ク監守人ハ勝訴者ノ爲メニ占有スト謂フヲ得ヘシ然レモ亦タ其妨害ヲ受ケ又ハ占有ヲ奪ハレタルモハ占有訴權ヲ行ハサル

可カラス

第九百二十二條 監守ニ附シタル物ハ雙方ノ中勝訴シタル者ニ返還スルヲ要ス然レトモ監守人ハ其責任ヲ免カレンカ爲メ訴訟關係人ノ允許又ハ裁判所ノ命令ヲ請求スルヲ得可シ

註解

第九百二十二條 訴訟争論ノ落着スルニ方リテハ勝訴者ハ始メヨリ争訟ニ係ル權利ヲ有シタルモノト看做サルヘシ而シテ監守人ハ之ニ物件ヲ交付スヘキナリ
唯ダ其判決ノ確定タルヲ要ス然レモ監守人ハ未ダ必スシモ其果シテ上訴ノ途ヲ絶テタルヤ否ヤヲ確知スルヲ能ハサルカ故ニ本條ハ之ニ訴訟關係人ノ承諾又ハ裁判所ノ命令ヲ受ケテ物件ヲ交付シ以テ其責任ヲ免カル、ヲ聽許セリ

第九百二十三條 其他ハ通常寄託ノ規則ヲ合意上及ヒ裁判所ノ監守ニ適用ス

註解

第九百二十三條 監守モ原ト寄託ナルカ故ニ本節中特ニ定メサル所ノ點ニ付テハ總テ寄託ノ普通規則ニ依循ス可シ

第九百二十四條 差押物件ノ裁判上ノ監守及ヒ辨濟ノ受諾ヲ拒ム所ノ權利者ニ辨濟ノ爲メ供セシ金額又ハ有價物ノ寄託(即チ附託)ハ訴訟法ニ規定ス可シ

註解

第九百二十四條 佛法典第千九百六十一條ハ裁判上ノ監守ノ場合ナリトシテ差押物件ノ監守及ヒ義務者其辨濟ノ爲メ提供シタル物件ノ附託ヲ掲出シタリ然レモ其欠典タルヲ人ノ認知スル所

ナリ蓋シ差押物件ノ監守ハ裁判所ヨリ直接ニ其職權ヲ以テ命ス
 ルモノニ非ラス差押法ニ據リ命スルモノナリ而シテ差押物件ノ監
 守人ヲ命スルモノハ差押處分ヲ爲シタル官吏ナリトス
 又權利者ノ受取ルヲ欲セサル物件ノ寄託及ヒ附託ハ少クモ金
 額外ノ物件ニ係ルキハ較々監守ニ類スル所アリ何ントナレハ金
 額ニ付テハ法律上附託ヲ命スルモノニシテ自餘ノ物件ニ付テハ
 之ヲ命スルモノハ裁判所ナレハナリ(參看第四百九十九條)
 何レノ場合ニ於テモ監守人ノ監理ニ關スル規則及ヒ返還ノ條件
 ハ特別ニシテ之ヲ指定スルハ訴訟法ニ於テスヘシ

民法草案中卷正誤

- 第七四行目
- 第三十七丁九行目
- 第二百二十二丁初行及三行目
- 第八十五丁七行目
- 第九十八丁十二行目
- 第二百八丁四行目
- 第二百二十二丁六行目
- 第二百八十三丁九行目
- 第三百六十二丁末行
- 第四百二十一丁八行目
- 第四百五十八丁十行目
- 第五百三十七丁六行目

誤 正
 新ハ 舊
 言解ハ 言辭
 解社ハ 會社
 將棋ノ下ニラ脱ス 將棋ノ下ニラ脱ス
 返濟ハ 辨濟
 減縮ノ下シテ脱ス 減縮ノ下シテ脱ス
 勤劣ハ 勤勞
 客齒ハ 客齒
 結合ノ下又ハ衍 結合ノ下又ハ衍
 ニ資力ノハノ資力ニ 資力ノハノ資力ニ
 ハ保人ハ 被保人
 謂ユル彼ハ 彼謂ユル
 貸借ハ 貸借

